

清瀬市新校開設に向けた基本構想及び基本計画に関する報告書

資料編

令和 5 年 1 1 月

清瀬市新校開設に向けた基本構想及び基本計画策定委員会

資料編

目 次

1 章 策定委員や学校関係者の要望等

1-1 清瀬小学校教職員の意見・要望	-1
1-2 清瀬小学校 6 年生児童による新校舎で大切にしたいこと調査	-10
1-3 清瀬市の新しい学校施設づくりワークショップ結果	-14
1-4 策定委員の意見・要望	-25

2 章 配置計画案

2-1 配置計画の検討条件	-29
2-2 配置計画の方針	-30
2-3 配置計画/建て替え計画案	-31
2-4 建設スケジュールの検討	-47
2-5 平面計画案	-49

1 章 策定委員や学校関係者の要望等

策定委員会や清瀬小学校の教職員、市民参加のワークショップを通して新しい学校づくりに関する様々な意見や要望が出された。また清瀬小学校では新校舎に期待することを児童主体でまとめる授業が行われた。その結果もあわせて示す。

これらの意見や要望の中には、立場の違いなどから相反する意見や上位計画に及ぶ要望、今日的な教育的課題や施設の課題の共有が必要な事項や関係者同士の対話を通して更に検討が必要な事項なども含まれており、本事業ですべて取り組むと判断できるものではない。ただし、こうした多様な意見があることを共有することが、新校が目指す学校像、教育像、施設像をつくるためにも必要な作業であることは疑うまでもない。

1－1 清瀬小学校教職員の意見・要望

清瀬小学校の教職員を対象としたアンケートと代表の先生方と面談による意見交換会を3回行った。その結果を示す。

(1) 教職員アンケート

○調査概要

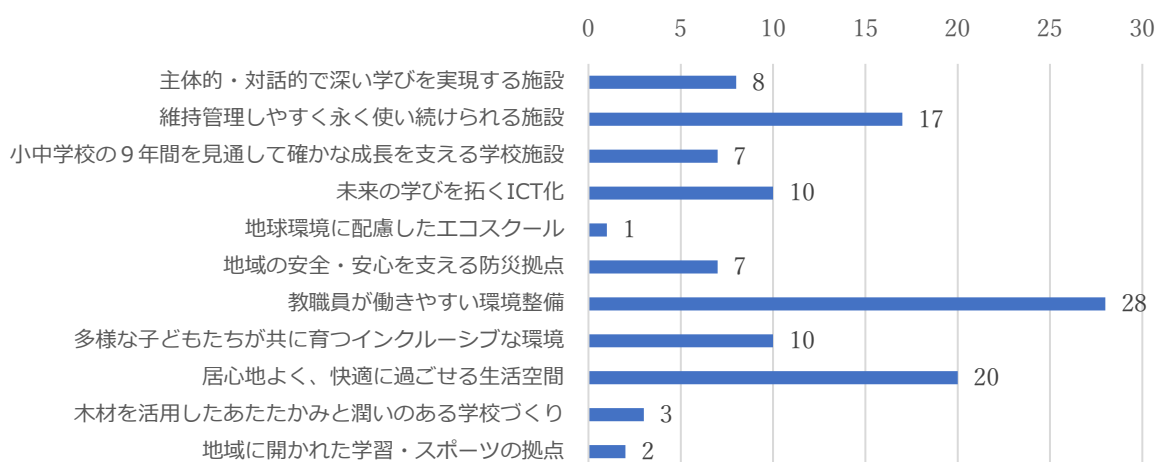
回答期間：2023年1月11日（水）～1月27日（金）

調査対象：清瀬小学校教職員（42名） 回答数：38名（回答率：90％）

○調査結果

問1 次の表に示す11の新しい学校施設づくりの課題について、特に関心がある項目を3つまで選択してもらい、その理由と要望を書いてもらった。

表. 新しい学校施設づくりの課題の中から特に関心がある項目



1 章 策定委員や学校関係者の要望等

関心がある項目の選択は、「教職員が働きやすい環境整備」について一番多く、次に「居心地よく快適に過ごせる生活空間」、「維持管理しやすい～施設」が続く結果となった。

次に主な意見や要望を項目ごとに示す。

【教職員の働きやすい環境整備】

- ・気持ちよく働ける職場で、教育がしたい

【居心地よく、快適に過ごせる生活空間】

- ・生活の基盤を安定させることが児童の安心した学習の基礎となる
- ・施設の心地よさが子供も大人にとっても大切だ
- ・児童一人一人が学校へ行き、学びたいと思える環境を整える
- ・児童、教員が使い勝手よく、スムーズに使える施設、設備があるとよい

【維持管理しやすく永く使い続けられる施設】

- ・壊れかけている機械などを使いまわしにしないで、新しい機械を購入してほしい
- ・備品や消耗品が慢性的に不足しており、財源をしっかりと確保してほしい

【主体的・対話的で深い学びを実現する施設】

- ・様々な学習形態に対して、スペースや設備の問題で実施できないようなことが多い
- ・教職員や児童が必要な時に、必要なものを、自分が望む場所で学ぶ機会を提供したい

【多様な子どもたちが共に育つインクルーシブな環境】

- ・誰にとっても学びやすい環境に変化させていくことが大切だ

【未来の学びを拓く ICT 化】

- ・ICT 設備の充実、どこでも操作でき、壁がホワイトボードで想像力を働かせることができる環境

【小中学校の 9 年間を通して確かな成長を支える学校施設】

- ・9 年間の成長を見通した学校を期待している
- ・9 年間を見通した食育活動に関心があるため、地域（農家、市役所養蜂等）と連携した食育も実施したい

【木材を活用したあたたかみと潤いのある学校づくり】

- ・子どもたちが居心地がよいと思える、木の温かみがある学校に惹かれた
- ・自然豊かな清瀬の学校としてふさわしい

【地域の安全・安心を支える防災拠点】

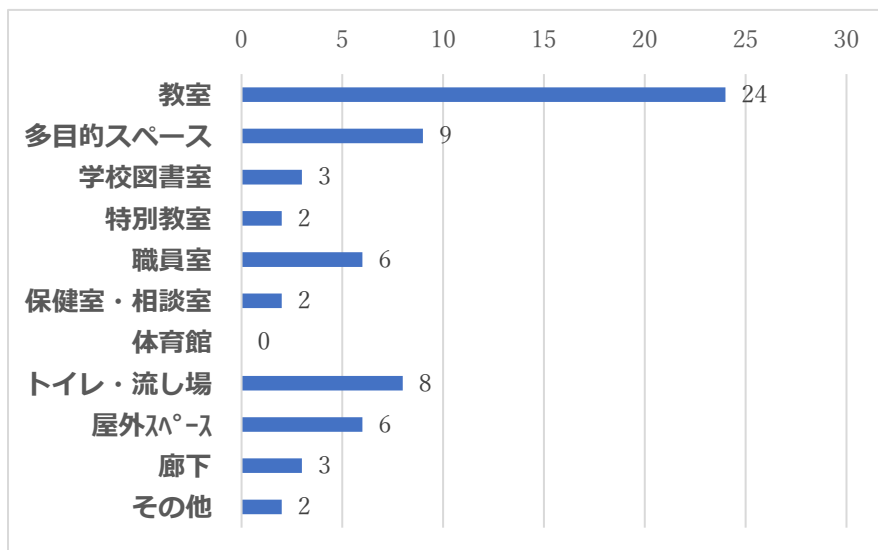
- ・死角がなく、広く見渡せるような大人の目が届きやすい校舎だとより良い
- ・教職員、児童、保護者、学校関係者、地域の方が安心安全に生活できる学校が良い
- ・校舎が古く、快適とは言い難い。老朽化により危険を感じることもすらある

【地球環境に配慮したエコスクール】

- ・環境問題への配慮が必要

問2 次の表に示す室・スペースから関心がある室を選択してもらい、要望を書いてもらった。

表.特に関心がある室・スペース



教室や多目的スペース、トイレなどの児童が日常的に利用する場所に関する関心が高い結果となった。次に室・スペースに関する主な意見や要望を示す。

【教室・教室まわり】

- ・教室は定員いっぱいの児童が在籍しても、ゆとりのある広さがあるとよい
- ・コロナ対応でソーシャルディスタンスが確保できない広さ。また窓を開けて換気するため、夏は暑く、冬は寒いことが課題である
- ・現在空き教室がなく、教室以外に活用できる部屋やスペースがない
- ・教室は特に安全であるべき
- ・教室のドアにカギと小窓を付けた方がよい
- ・閉鎖的な空間のため、可能な範囲でオープンスペース化したほうがよい
- ・教室や廊下にフリースペースを設け、雑談やグループ活動をできる場がほしい
- ・落ち着いて学習できるように、オープンスペースが極力少ない校舎

【収納】

- ・たくさんの荷物を収納できるロッカーやフックの充実を希望する
- ・現状はロッカーが狭いため、児童が自分の荷物を置くことが困難である
- ・廊下に給食ワゴンスペースがなく、通ると他の人がすれ違うことができない

【ICT 環境】

- ・電子黒板などの ICT 設備が各教室にほしい
- ・すべてホワイトボードか電子黒板が使える環境がよい。
- ・テレビを各教室に1台、暗幕等の環境整備もされているとよい

1 章 策定委員や学校関係者の要望等

【交流スペース・集会スペース】

- ・体育館以外に学年単位で集まれる場所が必要（できれば各階にほしい）
- ・100人程度が座って鑑賞できるシアターがあるとよい。（階段の活用）
- ・異学年交流ができるようなスペースがあると良い
- ・学年集会や生活科などで使える部屋がほしい

【トイレ・水まわり】

- ・洋式トイレの数を増やしてほしい（児童の多くが、和式に慣れていないため）
- ・トイレと流し場は広さと清潔さを長期に維持できるようにしたい

【図書室】

- ・蔵書の多い図書室がよい。子どもたちの読書活動を充実させたい
- ・子供の人数に対して、十分な本がおける広さ、子どもが読書をするときにゆとりをもって座れる場、畳などのおけるスペースがあるとよい

【職員室】

- ・教員数の実態と物理的なスペースがミスマッチなので、ゆとりのある職員室がよい

【居心地】

- ・児童生徒、教職員が居心地がよいと感じる環境を作してほしい
- ・子どもが気持ちよく生活できるように常にきれいに保てるような造り

【屋外環境】

- ・校庭は児童数が多くなることが予想されるので、なるべく広さが確保できると良い
- ・太陽光パネル設置だけでなく、屋上菜園・人工芝グラウンド・テラス等があると良い

【設備等】

- ・十分な広さが確保され、配線などがむき出しではない空間になるとよい
- ・冬は手を洗うのが辛いので、温かいお湯が出ると嬉しい

【動線】

- ・校舎の行き来に時間がかかるため、校舎間の2階同士など通路があるとよい

問3 現在の施設環境で良いところを理由や意見と共に書いてもらった。主な回答を示す。

【歴史や校舎の造り】

- ・歴史を感じる佇まい
- ・造りが丁寧で、昔の方の技術の高さを感じられる

【立地・周辺環境】

- ・市役所に近く連携がしやすい
- ・中学校との距離が近く連携がしやすい
- ・自然が多い
- ・中庭に畑があるなど植物が多く生息できる環境があること
- ・日差しが当たる

【トイレ】

- ・トイレの水洗がボタン式で使いやすい

【空調・換気】

- ・体育館に冷暖房があること
- ・換気しやすい

問4 新校の施設設備全般について思うことを自由に書いてもらった。主な回答を示す。

【校舎の構成】

- ・校舎の中に光が差し込む明るい校舎にしてほしい
- ・ロの字型で中庭があるような校舎。日当たりが悪いところは多目的スペースや資料室用の場所で、中庭が楽しいスペースだと更によい
- ・渡り廊下は集会スペースに使える広さがあり、ちょっとしたベンチがなどもあるとよい
- ・1階の教室には1年生用に教室から校庭に出入りでき、水道や飼育栽培スペースが近くにあるとよい

【ユニバーサルデザイン】

- ・誰にとっても使いやすい施設になればと思う

【保健室】

- ・シャワー室をつけてもらえると、嘔吐した児童やおもらしした児童の対応がしやすくなる

【給食調理室】

- ・食数に適した給食室面積、器具、機械の設置
- ・アレルギー食を配膳するスペースの確保を希望

【防犯対策】

- ・各教室の戸を閉めた時、廊下から中の様子がわかる戸にしたい
- ・特別教室以外の教室は鍵がかからないようにし、施錠するためには外（廊下）から施錠できるような仕組みにしておく。児童が触れないようにしておける場所がほしい

【設備等】

- ・LEDの電灯、廊下は人感センサー付きが必須

【校庭・屋外施設】

- ・プールをなくすのであれば、その分校庭を広く確保したい
- ・可能であれば体育倉庫や飼育小屋の建て直しを検討したい

【外観】

- ・バス通りや市役所通りから校舎がよく見えるロケーションにあるため、効果的に見せることも視野に入りたい

【期待】

- ・これからの社会に合わせた、清瀬、都のモデルとなる学校がこの場所につくられることがとても楽しみ

1 章 策定委員や学校関係者の要望等

(2) 教職員意見交換会

代表の教員と意見交換会を計3回行った。主な意見を整理して示す。

ア.教室まわり

- ・(将来)清瀬第八小学校との統合により児童数が増え、教室数が年によって変動する場合、引越しが少なく済むように教室数を設定してほしい。

イ.特別支援学級

- ・特別支援学級は30㎡×2室の組み合わせとして一体的に使えるようにしてほしい。
- ・全学年で行う活動があるのでそのためのプレイルームのような場所がほしい。
- ・学級担任の人数分の教室を設ける必要がある。

ウ.トイレなど

- ・トイレブースの間仕切は天井までほしい。

エ.管理諸室

- ・執務スペースは大きなテーブルで個人用の移動式キャビネットがあると、毎年の先生の配属変更に対応しやすい。
- ・コロナ禍では職員会議をオンラインで別室に分かれて行っていたが、職員室に戻るようになってきている。職員室の机をグループテーブルとして、そこに集まって会議ができるようになることが理想だ。
- ・清瀬市では教員に校務用PCを一人一台支給されているが、施錠して個人席に固定しなければならない。新校開校時には改善してほしい。
- ・配布物の印刷作業の場所とは別に、模造紙を使った掲示やデジタル教材の作成、教科や授業研究の打合せなど教材研究の場となる教材作成スペースが今後は求められる。職員室と直接つながる場所にあるとよい。
- ・リフレッシュスペースは教材作成スペースとつながり、一体的に利用できるとよい。
- ・プリンター(複合機)は職員室内に設けてもらいたい。
- ・小中連携を行っているため管理諸室は中学校の管理諸室と近い方がよい。

オ.体育館

- ・近年は暑さのため校庭で体育ができない。体育館を充実した方がよい。また校庭で活動しているときに雷雨があれば直ぐに体育館に避難できるとよい。
- ・雨天時など天候に左右されず運動できるスペースがあるとよい。体育館を2階にしてその下を使えるようにできるとよい。
- ・現状は器具庫が狭く、跳び箱も収納できずアリーナに出しており、衝突する危険性もある。器具庫に収納することを前提に確保してほしい。平均台3～4台が置けるスペースが必要で

ある。近年は高跳びも体育館で行うことがある。器具庫内の天井高さも必要だ。

- ・体育用具の出し入れを考慮し、間口はフルオープンにできるようにしてほしい。
- ・男女がお互いに見える場所で着替えるのは躊躇される。体育館の更衣室は2クラスが同時に利用できる広さが取れるとよい。
- ・備蓄倉庫は物品の出し入れや取り出しやすさを考えると、普通教室+ α の広さはほしい。

カ.校庭

- ・校庭は児童数に見合う広さが必要である。
- ・現在は校庭の南側に水栓がなく不便である。水栓は各所に設けられるとよい。
- ・校庭を全面芝生化するメリットは怪我をしにくいことがある。コートラインも引いたら消えにくい。課題は芝刈りが必要である点だが、数年経てば芝も落ち着いてその労力も減る。
- ・小中で校庭を共用することは難しい。

キ.菜園・花壇・観察園など

- ・現状は花壇もなく、理科や生活科で栽培活動ができる場所を確保できるとよい。
- ・例えば校舎の4階に理科室を設け、理科テラスを設けることもあり得るのではないか。
- ・屋上菜園は日当たりがよい。ただし土を屋上まで運搬しやすいようにしてほしい。
- ・現在のトラックは120m位で運用している。150mは長い。その分菜園を整備したほうがよい。

ク.地域連携/地域開放/複合化

- ・清瀬市はまだ学校施設の地域開放が進んでいる訳ではなく、開放時の人的対応を含めて検討していく必要がある。地域利用動線は学校と分ける必要がある。
- ・地域の図書館が併設されるとよい。
- ・清瀬市の学校はコミュニティ・スクールとなることが確定している。学校と地域の連携は更に増すだろう。
- ・防犯カメラを死角部分に必ず設けるなど安全面に配慮してほしい。

コ.外皮の仕様や性能

- ・通風や採光を確保した上で物を外に投げ捨てられない窓の形や仕様にできるとよい。
- ・現在の校舎は強風後に室内が砂だらけになる。新校舎では気密性の確保も大切にしてほしい。

(3) 学校支援コーディネーターの意見・要望

清瀬小学校と清瀬中学校を兼任する学校支援コーディネーターに新校舎に対する意見を確認するヒヤリングを行った。現在の活動状況を含めて次に示す。

1章 策定委員や学校関係者の要望等

○活動内容

<清瀬小学校における主な活動>

- ・新年度から3年ぶりにサタデースクールを月1回のペースで実施している。子供たちの居場所づくり、体力づくりを目的としている。
- ・木曜、金曜の朝学習で採点の手伝いをしている。2人で行っている。朝学習のボランティアは現在5人登録されている。
- ・クラスで支援が必要な子供の見守りを日常的に行っている。通常の学級にも様々な子供がいますので、その子供たちの支援と教員支援を目的としている。
- ・講師の派遣、農家見学の手配やボランティア募集を行っている。
- ・運動会や音楽会等の行事の受付も担当している。

<教職員との連携方法>

- ・校務分掌で割り当てられている地域連携担当教員と打ち合わせを行い、年間でこんなことをやりたいという事を確認し実行している。そのほか、適宜、教員から要望があった場合にえられるようにしている。

<小中共通の活動/連携活動>

- ・小中合同で避難訓練をしている。今後は炊き出し等を含む地域の避難訓練も合同で行う必要があると教員と話をしている。
- ・サタデースクールでサッカーをしているが、中学校のサッカー部の顧問の先生に声を掛けて生徒にコーチをお願いできないか話を進めている。
- ・小中の教員は考え方が違うところがあるが、小中のコーディネーターを掛け持ちしていることを活かして協働できる活動を少しずつ増やして小中連携につなげたい。

<防災活動/地域活動>

- ・小中合同で地域住民と避難所運営の訓練を行うことを提案している。
- ・清瀬市が2～3か月に1回の頻度で行っている防災活動に学校関係者の参加を求めている。
- ・中里共栄会と連携し、「火の花祭り」の運営ボランティアを保護者や大学生に募集している。

<ボランティア募集>

- ・ホームページでボランティアを募集している。QRコードから応募できるようにするなど、わかりやすく工夫している。
- ・小中が隣接しているので、両校で活動できる人を募集している。
- ・ボランティアは基本的に無償だが内容によっては有償の場合もある。
- ・学生がボランティア証明書を必要とされる場合は対応している。

※ボランティア募集の課題

- ・ボランティアが少ない。特に若い人に参加を呼び掛けている。卒業生や学生ボランティアも増やしたい。
- ・地元に根付いた学校なので、学校に協力してくれる地域の人々はいるが、コロナ禍で高齢者の参加がむずかしくなった。

○今後の展望

- ・地域の中心となり学校や保護者（PTA）と連携を強めたい。子供たちの最良を考えて行動したい。
- ・小中のどちらかでバザーを開くなど市民と交流を高めたい。
- ・学校支援本部の予算を確保したい。

○新しい学校施設の意見・要望

＜学校支援コーディネーターの活動拠点＞

- ・職員室にコーディネーターが利用できる場所はない。
- ・活動場所がないのは長年の課題である。「あの場所にいつもコーディネーターがいる」と認知される居場所がほしい。教職員と打合せを行うことが多いので職員室の近くが良い。
- ・活動拠点があると各方面に連絡や活動が展開しやすくなる。コーディネーターの存在やその活動がわかるように子供たちの近くが良い。またコーディネーターに会いに学校に来る人が子供たちの様子を見る機会が増えると良い。地域の方々が来やすいように低層階が良い。
- ・PTA 評議委員会にも参加しているので、PTA と連携しやすい場所が良い。
- ・個人情報や現金を管理しているので鍵が掛かる保管場所が必要である。
- ・コーディネーター用の PC や携帯電話がほしい。

＜施設全般＞

- ・子供たちが学校に来たいと思える、明るい学校にしてほしい。
- ・地域の人たちが入りやすい学校としてほしい。そのためにもセキュリティを強化してほしい。
- ・子供たちと世代を超えた関わりやつながりが生まれる場になってほしい。
- ・これからの学校は子供たちだけのものではないのではないか。地域の方々が利用する場所としても良い環境にしてほしい。地域が利用する場として考えるとこんなこともできるようになると前向きに考えられる学校になってほしい。
- ・避難時には様々な人が利用することになるので、非常時も使いやすい学校施設にしてほしい。
- ・職員室は1階がよい。上階になるだけで足が遠のく。中学校は外階段なので雨の日は滑って危ない。地域の方が中学校に来ることを躊躇する様子が伝わってくる。

1－2 清瀬小学校 6 年生児童による新校舎で大切にしたいこと調査

清瀬小学校 6 年生の教育活動として、新しい学校施設について、学び・生活・地域・安全・環境の 5 つの視点で他学年の児童を対象にアンケート調査を行い、その結果を踏まえて現状の問題点の抽出と提案という流れでクラスごとに話し合った。その結果をまとめて次に示す。

(1) 学びの提案

○6 年 1 組 「教科書をデジタル化」

- ・登下校時のランドセルが重いことを問題とし、その原因は教科書の重さにあるとした。
- ・教科書がすべてタブレットに入ればランドセルの重さは 1/3 になると確かめた。
- ・その他の教科書のタブレット化の利点として、いろいろな機能があり分かりやすい、拡大表示が簡単で目が悪い人も見やすい、書き込み保存ができることを挙げている。

○6 年 2 組 「みんなが楽しく集中して学習できる学校」

- ・授業中にふざけている人がいることを問題とした。集中できるようにするためにどうしたらよいか話し合い、3 つの提案をまとめた。
- ① 視界に余計なものが入らないようにすることで集中できる、話がよく聞けるようになる。
- ② クイズを出すなどすれば正解しようと集中する、楽しく授業ができる。
- ③ 適度な休憩を挟めば切り替えができる。

○6 年 3 組 「みんなが楽しく学習できる学校へ」

- ・楽しく学習できない、デジタル教科書を活用していないことを問題とし、解決方法を話し合った。
- ・タブレットを使ってプログラミング等をゲーム感覚で行うことで学びに興味湧き、タイピングも上達する、自分に合わせて学べるし先生の負担も減ると考察した。一方で視力の低下や知識の定着が図れない、遊んでしまうというデメリットもあるとした。
- ・それを解決するためには、目標を立てて学ぶことが必要で、目標が達成できればまた頑張ろうという気持ちになると考察した。
- ・そして学んだことを日常に活かすことを習慣にできれば、あれも学びたい、これも学びたいと自然に学びたい気持ちになるとした。

(2) 生活の提案

○6 年 1 組 「きれいな学校」

- ・清小の施設は古く、壁や床などがとても汚いため、良い気持ちになれないことが問題とした。そこで「きれいな学校」にするための提案を考えた。
- ・壁をきれいにするためには、壁を張り替える、足跡が残らない壁仕上げにする、きれいな状態を残したくなるような壁にする。

- ・下駄箱のまわりに砂が落ちていないようにするためには、下駄箱を新しくする、玄関を広くし靴の履き替えをしやすいとする、学年、クラスごとに下駄箱をつくる、下駄箱の近くまで下履きで行けるようにして履き替える回数を減らす。

○6年2組 「生活しやすい広くてきれいな清小へ」

- ・現在の施設は児童に配慮が足りないと感じるとして、「生活していて楽しい・嬉しいと思うこと」について6年生にアンケートを取り、最も意見が多かった3つを提案にまとめた。
 - ① 建物を広くすることで部屋を増やし教室を広々と使えるようにする
 - ② 室内プールとすることで風邪がひきにくく、冬でも温水プールにして入れる
 - ③ 運動しやすい広い芝生の校庭とすることで人とぶつかりにくくなり、大人数で楽しく遊べる、けが人が減る

○6年3組 「いじめがない、安心して生活できる学校」

- ・いじめやトラブルの対策が現状はしっかりできていないことを問題とし、みんなが安心して学校生活をおくることができるように3つの方策をまとめた。
 - ① 人の気持ちを理解するために、お喋りタイムをする、カウンセリングを行う、あいさつ運動や気持ちを伝える運動をする。
 - ② 教室の様子が変わりから見えればいじめが減るため、壁をなくしてカーテンでしきる。
 - ③ いじめの事件を調べ、どうしていじめはやってはいけないか理解し、いじめ防止の大切さを学ぶ。

(3) 地域の提案

○6年1組 「地域の人と交流が多い学校」

- ・地域の人々との交流が少ない、地域のことをよく知ることができていないことを問題とし、地域の人々との交流をもっと増やすための方法を考えた。
 - ① ボランティアを進んでやることで地域のことを理解する、地域の一員として行動する
 - ② 地域の人々と楽しめるイベントを行う、地域のイベントに積極的に参加することで地域との交流を深める、地域ではこんな事ができると理解する
 - ③ 学校を開放してみんなが遊べるようにする。図書室は勉強や本を読める場所、体育館や校庭はみんなが遊べる場所

○6年2組 「地域の人とたくさん関わることができる学校」

- ・清瀬小学校と地域が関わりにくくなっている、コロナのせいで行事をあまりやっていないことを問題とし、関わりを増やすための方法を考えた。
 - ① イベントを行うことでみんなが楽しめる、(学校の)評判がよくなる
 - ② 挨拶することで地域に知り合いが増える、仲良くなれる、また挨拶しようという気持ちになる

1 章 策定委員や学校関係者の要望等

- ③ ボランティアを行うことで地域がきれいになる、(学校の) 評判がよくなる

〇6 年 3 組 「地域と関われる学校」

- ・ コロナ禍で地域の方々との関わりが少なくなっていた。また学校行事も少なく、地域との関わりを少しでも増やそうと 2 つの提案をまとめた。
- ① 他の地域では行事が復活しているところも多くなっているため清小でも学校周年行事や祭りなどの行事を増やす。
- ② 子供の様子が見たい保護者のために授業参観や説明会を増やす、また地域の人達にも来てもらうように呼びかける、楽しんでもらえるようにする、不審者が入ってこないように案内する。

(4) 安全の提案

〇6 年 1 組 「安全で楽しく過ごせる清小へ」

- ・ 渡り廊下は雨漏りし、階段の手すりが一部分しかないなど安全ではないところが多くあり、とても危ない。原因は老朽化や建設時の安全への考え方にあるとした。
- ① 渡り廊下の雨漏り対策は、雨漏りしにくい素材に変える、渡り廊下に壁をつけることで安全性を確保できる。
- ② 安全に遊具で遊べるために、錆びにくい素材 (ステンレスなど) に変える。具体的には 5 つの遊具を改善する。
 - ・ 鉄棒
 - ・ 太鼓橋
 - ・ ジャングルジム
 - ・ 滑り台
 - ・ 雲梯 (うんてい)
- ③ 安全に階段の上り下りができるように手すりを全体に設置する。

〇6 年 2 組 「病気や怪我がなく、安全に楽しく過ごせる学校へ」

- ・ 最近、怪我や熱中症などで保健室に行く人が多くいる。施設に熱中症対策がされていないことが原因とした。
- ・ また防犯意識が低く、設備がしっかりしていないことも問題とした。
- ・ これらをふまえて、3 つの提案をまとめた。
- ① 天井に扇風機をつけて、風にあたる人とあたらない人の偏り (かたより) をなくす。
- ② 校庭を全部芝生にすることで転んでも怪我をしにくくする。
- ③ ネットランチャーを設置し、不審者が来たときに遠くからでも捕まえる。

〇6 年 3 組 「防犯・防災意識のある学校」

- ・ 今の清瀬小学校が防犯カメラの数が少ないこと、避難訓練を真面目にしていない人がいることなどを問題とし、3 つの提案をまとめた。
- ① 不審者が学校内に入ってきててもすぐわかるように、正門・渡り廊下など誰でも入って来ら

れるような場所に防犯カメラを取り付ける。不審者も防犯カメラを見つけて入りにくくなる。

- ② 誰でも飛び越えられるとすぐ入ってきってしまうので、高く頑丈な塀にする。入ってくる可能性が減り、入ろうとするのに時間がかかる。
- ③ 不審者対応訓練を緊張感を持って行えば、本当に不審者が入ってきたときに焦らずに避難できる。安全に対する意識を高めることで、先生がいなくても行動できるようになる。

(5) 環境の提案

○6 年 1 組 「節電節水、3R ができる学校へ」

- ・みんなが過ごしやすい社会にするために、少しでも節電節水や 3R ができる提案を行うことで、ゴミを減らし、きれいで環境に優しい学校をつくりたいと考察した。
- ① 児童アンケートで節電しているという回答が少ないことを受けて、太陽光発電を利用することで電気の使う量を調節し、無駄使いを減らす。
- ② 「ゴミを発生させないようにしている」の回答者が少ないため、3R(5R)の意識を高める。
- ③ 水道を全て自動にすることで節水する。使う側も蛇口を回す手間がなくなる。

○6 年 2 組 「新しい学校の環境」

- ・学校全体がきたないというアンケート結果から、きれいにする提案を考察した。
- ① 屋内温水プールと維持管理
 - ・風邪を引きにくく、雨でも水泳できる、プールの清掃員を雇い、常にきれいな水を保つ
- ② 清潔に使えるトイレ
 - ・定期的に清掃員が掃除する、においを消す、床に尿がたれないようにする
 - ・トイレがきれいな写真と、きたない写真を廊下に貼る
- ③動物を飼育し、命の大切さを学ぶ

○6 年 3 組

- ・清瀬にはたくさんの自然があるが、あまり自然と関わっていない、今の清小の自然を有効活用できていないことを問題とした。
- ① 自然を大切にする学校にするために、校庭全体を芝生化する。砂も飛ばなくなる。怪我を無くすることができる。
- ② 自然を大切にする学校にするために、たくさんの自然をつくる。池や川を設けて魚を育て、魚に触ったりして命の大切さを理解する、中庭を広くして植物を育てる。

1－3 清瀬市の新しい学校施設づくりワークショップ結果

保護者や子供たちを含む市民、学校関係者を対象とした事前申し込みによる自由参加型のワークショップを計4回開催した。各回の概要と主な意見・要望を示す。

(1) 第1回ワークショップ「新しい学校施設の夢を語り合おう」

令和5年1月21日に開催し、新しい学校施設について自由に意見や希望を出し合ってもらった。子供たちを含む29名の参加があり、5グループに分かれて付せんに自分の意見を書き、模造紙にそれらの意見をまとめて全体で発表してもらった。その結果を整理する。

○学校づくりの目標

話し合いの成果を発表する際にタイトルを付けてもらった。「明るくきれいでゆとりがあり、自然を生かした学びができて、異学年交流や地域との懸け橋となる学校を目指すことで、いつでも誰でも行きたくなる楽しい学校になる」とつながることができる。

「明るく、きれいな学校」

「ゆとりがある学校」

「自然の豊かさをいかした学校」

「異学年交流や保護者、地域と懸け橋になる学校」

「いつでも 誰でも 行きたい 楽しい学校」

○施設環境のイメージ

- ・地域と学校がつながるために、地域に開かれた学校がよいという意見が挙がった。関連して大学生も入れるような施設、みんなの居場所になるような学校、地域のコミュニティセンターとなるような学校を望む意見が挙がった。
- ・一方で教員の負担がない地域開放の仕組みが必要という意見や、知らない人が入ってくるという怖さがあるのでセキュリティ強化を求める意見があった。
- ・学校と保護者の対話、地域との対話を大切にしてほしいという意見もあった。
- ・自然が豊かであるという清瀬市の特長を生かし、畑で育てられる学校にしたいという要望があった。また養蜂など地域の名産を作る取り組みができる施設設備を望む声もあった。
- ・太陽光利用や残飯を肥料にする設備で環境教育に取り組みたいという意見もあった。
- ・幼保連携や立地を生かして小中連携が図りやすい施設を望む意見も挙がった。
- ・避難場所としての役割や機能の充実を求める意見があった。地域開放を行うことで避難の際も運用がスムーズにできそうという意見もあった。
- ・開かれた教室として学びを楽しめる環境を求める意見があった。

○校舎等の形状

- ・現在の分棟型の校舎が不便であることから、わかりやすく、まとまりのある校舎がよいとさ

れた。また校舎で校庭を囲めるとよいという意見や屋上で四方が一望できるとよいという意見もあった。

○ICT 環境

- ・ ICT が屋外でも使える環境がほしい、保護者連絡は個人所有のスマホがよいという利便性を高める要望が挙げられた。
- ・ 図書の電子化を求める意見もあった。

○通学路の安全対策

- ・ 校門や通学路の安全性の確保が必要、登下校が安全安心な環境、歩道が整っていることから正門はけやき通り側にあるとよいという意見が出された。

○各スペース等の要望

ゆとり

- ・ 廊下や昇降口が狭く混雑する、児童机が小さいことの改善を求める意見が挙げられた。

校庭

- ・ 広い校庭でのびのび遊びたいという意見、近年の酷暑で暑くて外では体育ができないので全天候型の校庭を求める意見、雨天時の遊び場を求める意見が挙げられた。
- ・ また幼児がいる保護者も多いことから未就学児も遊べる環境があるとよいという意見もあった。

図書室

- ・ 大人も読める様々な本があることで、地域開放や子供の興味・関心を高められるとよいという意見があった。

教職員スペース/働き方

- ・ 職員室の空間や先生の時間にゆとりが必要、交流の場や交流できる時間、DX 等によって先生が働きやすい学校、クラブの外部指導等で負担減を目指せるとよいという意見が挙げられた。
- ・ 学校と保護者の対話、地域との対話を大切にすること
- ・ 先生方のゆとりが学べる時間を生む。があるとよい

収納環境/児童の持ち物

- ・ 収納が手狭なため、収納の充実を求める意見や児童の持ち物の多さの改善を求める意見が挙げられた。タブレットの授業は楽しいが、重くて持ち帰りが大変という意見もあった。
- ・ 水筒を家庭で用意するのではなくウォーターサーバーを設置してほしいという意見もあった。

トイレ等

- ・ 現状のトイレの広さや流し等の数の少なさから混雑して使いにくいという意見、トイレが汚いという意見が挙げられた。

学童クラブ等

- ・ 放課後の居場所や学童クラブの活動場所の充実を求める意見が挙げられた。

1 章 策定委員や学校関係者の要望等

(2) 第2回ワークショップ 「新しい学びの場・生活の場・地域活動の場」

第2回は令和5年3月25日に開催した。当日は13名が参加し、3グループに分かれて「こんな風に学べるといいな（学びの場）、過ごせるといいな（生活の場）、使えるといいな（地域活動の場）」と思う場所を予め用意した92枚の事例写真をヒントにグループ内で話し合ってから発表してもらった。その結果を次にまとめる。

○学校づくりの目標

話し合いの成果を発表する際にタイトルを付けてもらった。「安全・安心でリラックスできて、心もオープンになる学校」とつながることができる。

「リラックスできる学校にしたい」

「安全・安心、心がやすらぐ学校」

「施設も心もオープンに！明るく安心！！」

○施設環境のイメージ

- ・学びには子供自身が場所を選べること、人と人がつながる場所があることが求められるという意見があった。
- ・子供が過ごす場所は安全安心で楽しい場所としたいが、充実した施設とするためには校地が狭いのではないかという意見が挙がった。
- ・地域の人が清瀬小学校に花を植えている。そうした取り組みなどを通してみんなで学校づくりができるとよいという意見があった。

○各スペース等の要望

教室まわり

- ・クラスがオープンスペースでつながると、教室を広く使えて見通しがよくなるので、いじめがなくなることも考えられそうだという意見が挙がった。

トイレ等

- ・トイレや共用スペースなどのみんなが利用する場所は、自然光が入り明るい色使いがよいという意見があった。
- ・LGBTQに配慮し、誰にとっても居心地の良い場所になるとよいという意見があった。

次頁に参加者が選んだ事例写真と付せんに書いた意見を学びの場、生活の場、地域利用の場としてまとめたものを示す。また特に選ばれることの多かった7枚の事例写真について出された意見と共に示す。

学びの場

<教室>

- ・ICT環境を整えて、学校から外に繋がりがやすい環境があるとよい。
- ・協働的な学習がしやすい環境があると考える力や行動力が身につく
- ・狭い教室ではなく広い環境で過ごしてもらいたい
- ・四角ではない教室

<教室まわり>

- ・集団と個がそれぞれ学びやすい場をつくる(人数編成に対応できる場所があるとよい)
- ・教室から全てがオープンになっているところが、誰が見ても目が届くのでよい
- ・十分な収納スペースが確保できそう

<雨の日の活動場所>

- ・雨で体育ができないときや休み時間等に利用
- ・雨の日の「廊下をはしる」がなくなるスペース
- ・運動意欲、気持ちのコントロールを行う場所として

<図書室>

- ・読み聞かせなど、みんなで聞くことができるスペースも大切
- ・図書館でプログラミングや様々なことに触れられるとよい

<階段ホール>

- ・後方の子でもよく見える
- ・絶対に必要なもの、校内に2～3か所あるとよい

<特別教室>

- ・学習の世界に入る、教科の世界観がワクワク感を高める
- ・研究員みたくでテンションが上がる
- ・グループの意見を共有しやすい

<屋外>

- ・屋内だけではなく実物を見てほしい
- ・教室だけではなく学びの場は子どもたちの意識を変える

<その他の意見>

- ・全天候型 庭
- ・屋内プール

生活の場

<トイレ>

- ・プライバシーを守りたい
- ・外からも入れるトイレ
- ・誰でもトイレの位置は重要
- ・スペースの確保が重要
- ・LGBTQに配慮したトイレ
- ・清潔なトイレと大きな鏡の設置、鏡は自分を見つめる、客観視できる
- ・明るいトイレがよい(自然光、色使い)

<デン>

- ・モヤッ、イラッとしたときの避難場所
- ・自分の感情をコントロールできる場所
- ・逃げ込む場所が「トイレ」以外にあるとよい
- ・見守る人がいる居心地の良い場所があるとよい

<掃除ステーション>

- ・清掃活動の意義、空間を分け、効果的に活用する

<図書室>

- ・いろいろな椅子、好きな姿勢で読める空間で
- ・リラクセス

<階段ホール>

- ・いろいろな場所で好きなことを
- ・多目的に使える場所が必要。

<特別教室>

- ・家庭科室 子供食堂として利用できる
- ・特別教室の学習教科以外の使用ができるとよい

<屋上>

- ・テラスを緑化して、屋内・屋外の一体化をはかる
- ・ベンチ、芝生、大型遊具があるとよい

<学童クラブ>

- ・人数が増えなくても対応できる広さが必要

<その他の意見>

- ・LGBTQに配慮した更衣室

地域利用の場

<体育館>

- ・走路があると学校体育館の可能性を広げられそう

<避難所機能>

- ・しっかりとした備蓄倉庫が必要
- ・地域と一緒に訓練ができるとよい
- ・井戸ができるなら、あるとよい
- ・高さが違う水道はいろいろな方が使用できる(ペットも含む)

<多目的スペース>

- ・子ども大人、大人と大人(教員・地域)が繋がりがやすい場所があると嬉しい
- ・保護者、地域、大人たちに学校に興味を持ってもらう

<みんなが利用できる場所>

- ・児童センター的に利用できる
- ・児童館として赤ちゃんと子ども、お年寄りも利用できる空間
- ・就学前に学校の雰囲気わかる
- ・親子で図書室が使用できるとよい

<階段ホール>

- ・教育だけではなく、様々な用途で活用できそう

<職員室まわり>

- ・保護者も入りやすい

<校庭>

- ・放課後・休日の利用
- ・ホールが使えるとよい

<学校周辺>

- ・学校周辺の環境整備もされるとよい
- ・地域住民との関係づくり

<その他の意見>

- ・地域資源を共有できる学校
- ・セキュリティの強化

子どもたちが利用するスペースと地域の活動や避難所を中心に選定した92枚の写真から、学びの場・生活の場・地域の場の3つについて、写真を選んだ理由や意見をふせんに書きました。特に選んだ人が多かった7枚の写真について主な意見をまとめました。

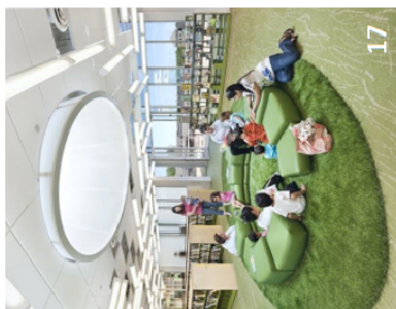
<教室・教室まわり>

- ・教室を広く使用することができる
- ・集団と個がそれぞれ学びやすい場をつくる
大集団・小集団・個人・2～3人、集団構成によってそれぞれ対応できる場所があるとうい
- ・教室とオープンスペースの間にロッカースペースがある、オープンで死角がない
- ・誰が見ても目が届くのでよい（いじめ防止にも）
- ・学年で使える共有の場、クラス間交流に有効、フルオープンにできる扉がほしい



<図書室>

- ・いろいろな椅子、好きな姿勢で読める空間
- ・リラクセスして仲間とくつろぎストレスを解放できる
- ・寝転んで本を読める環境などは取り入れてほしい
- ・未就学の子どもたちも使用することができそう
- ・緑があることで、リラクセスできる
- ・様々なニーズに合わせた図書館、読み聞かせなど、集めてみんなで聞くことができるスペースも大切



<教室・教室まわり>

- ・雨で体育ができないときや休み時間等に利用できそう
- ・雨の日に「廊下をはしる」がなくなりそう
- ・運動意欲、気持ちのコントロールを行う場所としてあるとよさそう
- ・屋内でも運動できるスペースがあるとよい



<階段ホール>

- ・教育だけではなく様々な用途で活用できそう
- ・多目的に使える場所が必要。部屋として用意していただくもよい
- ・階段のようなスペースがあると後方の子でもよく見える 見えないことで見ないずいと思う
- ・絶対に必要なもの、校内に2～3か所あるとよい

<ベン>

- ・落ち着くスペースが必要
- ・自分の感情をコントロールできる場所
- ・逃げ込む場所が「トイレ」以外にできるとよい
- ・ホッとできる場所が必要だけど、見守る人も必要
- ・一人になりたいときに落ち着く空間があるとよい
- ・自然木を利用してよい



<避難所機能>

- ・避難所は学校のイメージがある。地域の方と一緒に訓練等ができるとうい
- ・避難所はこの写真のような場所でのよいのか
- ・避難所としての学校、仕方なくカーテン等で区別するような形ではなく、生活の場として利用できる施設をつくる
- ・多目的室や体育館ではなく、利用しやすい避難所としてのスペースを考える
- ・階段・エレベーターにも工夫が必要



（３）第３回ワークショップ 「部屋の構成や校舎配置について話し合おう」

第３回は令和５年６月１７日に開催した。当日は２４名の参加があり、４グループに分かれて模型を使いながら校舎等の配置について意見交換をしてもらった。新しい学校施設は周辺施設との関係はどうあるとよいか、小中が同じ場所にあることや隣に市役所があることを生かして、お互いの施設を共用したり、地域開放したり、避難所として使いやすくしたりするアイデアについて話し合い、全体発表で共有した。次に主な意見をまとめると共に、模型で検討した配置案を図示する。

○校舎配置/屋外教育環境

- ・中学校の校舎と一体的な構成とする、南に開かれた位置に校舎を配置する、北側の道路沿いに建ると住宅地への配慮が必要といった意見が挙がった。
- ・しあわせ未来センターに面して誰もが利用できる部屋ができると施設を超えて連携できるという意見もあった。
- ・校庭を小中一体として広くする、校舎の近くに遊具を置く、雨の日も使える中庭、既存樹木の保全などの意見が挙がった。

○小中連携

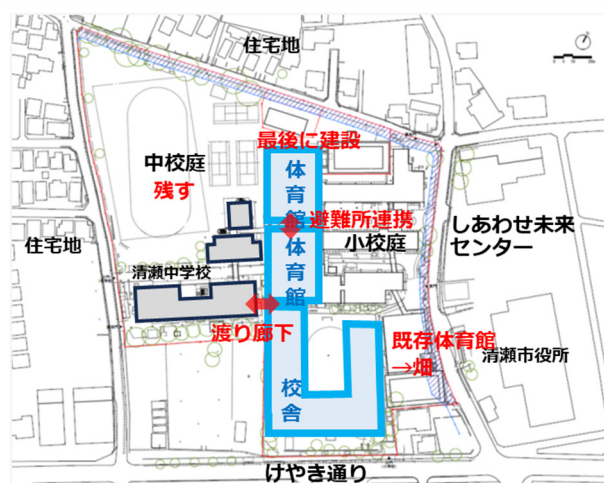
- ・中学校校舎と渡り廊下でつなぐ、職員室や図書室、給食室、体育館を小中一体としたり近くに配置したりするなどの提案が挙がった。
- ・一方で小中の時間割が異なることから共用は課題があるという意見もあった。

○建て替え計画

- ・体育館は工事中も使えるようにするという要望が挙がった。
- ・仮設校舎なしの計画だと校庭が確保できない等の不都合が生じるという意見もあった。

チーム 小学生も中学生も一緒に学ぼう

- ・小中の図書室や職員室、給食室は一体的にあるとよい
職員室は交流のため、中学校に間借りしてもよさそう
- ・小中の校舎を渡り廊下でつなぐ
- ・小中の時間割が違うため、体育館や校庭の共有が課題
- ・体育館の工事は授業で使えるように最後に取り掛かる
- ・体育館を隣接して避難所機能を高める
- ・工事中の小学生の遊び場がない
- ・特別支援の小教室は廊下をはさんで２クラスを１クラスにできる構成がよい
- ・マンホールトイレが必要
- ・小学校体育館があった場所に畑を設ける、プールの建設が必要になった場合は畑の場所に建設する
- ・学童は小学校の敷地外



チーム サイコーな学校！！

- ・採光を確保できる南向きの校舎が望ましい
- ・中学校と渡り廊下でつなぎ、連携できるとよい
- ・校庭に日影が必要
- ・救急車両の動線や北側通路の通学路の安全性の確保が必要
- ・小学校の用具室の横にあるイチヨウの木は残したい
- ・体育館の上もしくは地下にプール
- ・廊下を広くとれるとよい
- ・イベント利用などを考慮し体育館は小中で分けたい
- ・仮設校舎なしでどうやって建て替えるのか
- ・工事期間の目途を示してほしい



チーム けやき

- ・仮設なしで小学校の校庭に建てると、建設中の校庭の確保ができず、高層になるので環境がよい。
- ・中学校の校庭に建てると、住宅地に近いので建物高さや育等の配慮が必要になる
- ・図書館は小中一緒の場所にして連携しやすい構成にする、ただエリアを分けるなどの活動に応じた配慮が必要。リラックスできるスペースがよい
- ・中庭は雨の日も外で活動できるように光の入れる屋根をかける
- ・校舎の近くに遊具をおいたり、低学年が遊べるような場所をつくったりして、第2中庭にする
- ・誰でも利用できる室をしあわせ未来センターに面してつくり、連携しやすい配置にする（子育て相談・不登校相談等）
- ・体育館に屋内プール（地下・屋上）



チーム みんなの運動場

- ・地域の方たちも利用できる、みんなの運動場をつくる
- ・小さな中庭をつくって、小中の交流ができる場所をつくる
- ・校庭は広く緑で囲む、南側がよい、ナイター設備がほしい
- ・稲や植物を育てられる畑や池がほしい
- ・ベンチがほしい、人工芝
- ・コの字型の校舎で互いにみられる環境
- ・小中の校庭を一体的にすることで広さを確保する
- ・避難所にはプールはあったほうがよい
- ・校舎を固める 教員の交流、給食の移動
- ・今後の建て替え計画を考えて仮設校舎もありなのでは



（４）第４回ワークショップ 「学校施設の地域利用について話し合おう」

第４回は令和５年７月２２日に開催した。学校施設の地域利用（地域開放と避難所）をテーマとし、使いたい施設、使いやすくなる工夫や配慮、学校と地域の関係づくりで大切にしたいことについて４グループに分かれて話し合ってもらった。当日は２０名の参加があり、地域が利用する施設のあり方だけではなく、施設全般や建設後の運営のあり方に及ぶ多くの意見が挙がった。

主な意見と要望をまとめる。

ア.使いたい施設

○地域開放

特別教室

- ・生涯学習や自治会などの地域活動の場として特別教室の開放を求める意見が挙がった。楽器を演奏できる音楽室、映画が上映できる音楽室、世代間交流で使える家庭科室、図工室でDIYを行いたいという意見もあった。
- ・親子食堂など子育て支援の場所としても特別教室を利用したいという意見もあった。

学校図書館

- ・日常的に使える、休みの時もみんなが安心して使える、親子で使える、大学生も勉強できる、未就学児が絵本を読める、パソコンが使えるなど多くの要望が挙がった。

会議室

- ・自治会等が使える会議室がほしいという意見があった。

居場所

- ・みんなで使うだけでなく、一人でもいられる場所がほしい、子供が遊んでいる間に親はお茶を飲んだりできる場所、高齢者もふらっと入って休憩できるカフェのような場所がほしいという要望が挙がった。
- ・市の進める命のチカラプロジェクトに関連して乳幼児がいられる場所も求められている。

コミュニティ

- ・学校で多くの人と関われるようにしたいという意見があった。

スポーツ施設/遊び場/屋外環境

- ・体育館や校庭は空調や更衣室、トイレが使える、道具が借りられる、夜間照明などの要望が挙がった。世代問わずトレーニング器具を利用できる施設という要望もあった。
- ・舞台を使った発表活動ができる体育館という要望も挙がった。
- ・幼児もあそべる遊具を充実してほしい、校庭には日影のある休憩スペースが必要という意見もあった。テニスコートの開放も求められている。
- ・市内の小・中学校と市民のための市立室内プールが１つほしい。新校の場所が最も適しているという意見もあった。
- ・自由に校庭を使用できる時間帯があるとよいという意見、休日に校庭で子供とキャンプがしたいという意見もあった。
- ・農園や花壇で地域住民と一緒に作業できるとよいという意見もあった。

1章 策定委員や学校関係者の要望等

学び・仕事

- ・塾 駅まで行くのが危ないので、学校に塾があるとよいという意見や、子供と一緒に学校へ出勤してテレワークしたいという意見もあった。

その他

- ・コンビニがあるとよい、給食を売ってほしいという意見もあった。

地域開放の是非

- ・学校は教育をするところであり、社会性の土台を育成する場である。決して地域開放を優先すべきではない、子供は動き回り、走り、大声を出し、泣く。学校中にあふれる子供たちの姿に地域の人がおどろき、余計な心配のあまり苦情をたくさん寄せるのではないか、小さい子供と高齢者は望む環境や施設が違う、うまく融合できるかという問いが出された。
- ・お金をかけ過ぎないようにという意見も挙がった。

○避難所

安全性

- ・実態としても見た目など心理的にも安全性がある建物としてほしいという意見があった。

個別対応

- ・プライバシーの配慮、避難者が相談できる場所、授乳室にもなる部屋、女性や小さい子供も安心して使える場所、男女ともに個室トイレ、障害や高齢者への配慮などについて意見が挙がった。

避難所の充実

- ・地域開放している部屋を避難所利用できるようにするという意見もあった。

支援スペース

- ・電源車両や緊急車両が入れるスペースや消防関連団体の活動スペース、車が入ってもデコボコにならない校庭などについても意見が挙がった。

Ⅱ.使いやすくなる工夫や配慮

○地域開放

雰囲気/デザイン

- ・公共感を抑える、公共施設というイメージがありすぎない方が子育てのリフレッシュの場になるという意見も挙がった。

情報発信

- ・大人が使ってよいという周知が必要という意見があった。

開放利用区分

- ・子供と大人で使い方によってすみ分けができるようにしてほしい、学校と地域の入口は別にしてほしいという要望があった。
- ・子どもの生活空間に地域住民が自由に行き来できないようにする、授業時間と地域利用の時間帯を分けるといった意見が出された。

防犯対策

- ・地域で子供たちと学校を見守りたい、多くの人の視線があることで防犯性を高めることができるという意見と多くの人が入ることによる不審者対応が不安であるという意見があった。
- ・誰でも利用できることを前提とした防犯・安全対策を講じることが必要とされ、顔認証や指紋認証システムなどの活用、防犯対策を講じたスマホアプリによる事前ネット予約などのアイデアが出された。
- ・また NPO 法人などに開放利用の管理運営を委託することも意見が挙がった。

予約方法

- ・気軽に使えるように複雑な予約システムとしない、団体間の予約調整ができる、ICT を活用する、一方で ICT が苦手な人も予約しやすいようにする、子供も予約できるといった要望が挙がった。

トイレ

- ・ユニバーサルトイレ、だれでもトイレの整備、トイレが多い方がよいという意見や子供と大人が共有することで汚れや感染などが心配。子供目線で管理してほしいという意見もあった。

学童クラブ

- ・子供が学校を出ないで学童クラブに行けるようにしてほしいという要望と、学童クラブと学校の区切りを丁寧に作るという意見が挙がっている。

○避難所

- ・学校に入ると一目でわかる分かりやすい避難所のサインがあるとよいという意見があった。
- ・避難所の運営を考える運営委員会を作してほしい。若い女性、子育て中の人、妊娠中の人、病気を抱えている人の声をひろい上げ、避難生活がスムーズにいくようにしてほしいという意見があった。

ウ. 地域と学校の関係づくり

○地域連携

- ・清瀬の伝統文化を地域の方と学べる場、伝承スタジオを求める意見が挙がった。子供も大人も郷土愛を育む地域づくりの教育ができるとよいとされた。
- ・地域懇談会の実施や NPO 法人や消防署などから講師を招いた講演活動、セーフティ教室を地域の人と学校が一緒にできるとよいという意見があった。
- ・地域の行事を学校で行うことで多世代交流を図る、日常的にイベントを行い交流する、福祉施設との交流を図るといった意見が出され、関わりのある地域の人を増やし、「みんな知っている」関係づくりができるとよいとされた。
- ・地域の人が先生になる学習の機会や授業支援という意見も挙がった。

防犯/安全対策の支援

- ・保護者つきそい隊、地域見守り隊 地域の人が登下校の見守りといった学校支援について意見が出された。

1 章 策定委員や学校関係者の要望等

学校や教職員との関係

- ・一番は現場の先生方の意見が大事として、職員の意向をふまえてほしいという意見と、教員と地域の方との連携が大事だが教員は負担ではないかという意見が挙がった。
- ・主役は「小学校の子供たち」の認識で地域利用は2階までとし、大人優先にしすぎないという意見も挙がった。

○避難所

- ・運営会議への継続的参加という意見や校長先生が変わる度に使い方を変えないでほしいという要望も出された。

エ.その他

○施設全般

- ・校舎の向きは南向きとしたい、職員室から校庭が見えるようにしたいという校舎の構成に関する意見が出された。
- ・教室はオープンスペースではなく戸や壁がある構造にしてほしい、一人当たりのロッカーをひろくしてほしい、掲示面を工夫してほしい、床は木材が良いが、材料高騰も考慮する必要がある、廊下に広い所があれば、いろいろ活用できるといった意見が出された。
- ・階段状の集会スペースは音が響き過ぎると使いにくいという意見や昇降口は1か所で600人が入るのは無理ではないかという意見があった。
- ・体育館は音響や照明設備を充実し、空調整備は静かなものがよいと要望された。
- ・給食室は小中で分けて造る、学童クラブも人数が増えているので、クラブの中にも調理室を作してほしいという要望もあった。

○今後の進め方など

- ・計画ができたらもう一度ワークショップを開いてほしい、新しい施設を見学する機会がほしいという要望も挙がった。

1－4 策定委員の意見・要望

計8回にわたる策定委員会の議論を通して、清瀬小の教職員やワークショップの結果をふまえて各委員から新しい学校づくりに関してさまざまな意見や要望が出された。主な意見を項目ごとに整理する。

（１）学校施設のあり方全般

- ・学校は教育の場であるということを一番に考えることが大切である。
- ・将来、50年後、100年後で教育のあり方や考えも変わる。その時々に対応できるようなフレキシブルに変化できる施設が求められる。
- ・清瀬小学校の整備が今後の市内の学校づくりの基盤（フラッグシップ）となるようにしたい。
- ・新しい時代を築いていくにあたって地域コミュニティの拠点となる学校の必要性を感じている。地域開放や複合化も考えられる。教育的な意義を考えても大きな意味を持つ。
- ・安全面に配慮することは前提として、地域の方々が学校に関わり、学校の学びが外に広がっていてもよい。
- ・安全安心は前提として、のびのびと学べる学校をテーマとしたい。
- ・これからの時代を担うような校舎としたい。
- ・環境問題を学べる施設になるとよい。
- ・新しい校舎は施設の長寿命化を優先してほしい。新しいうちは問題ないが、経年劣化していくのでメンテナンスしやすい設備等を検討できるとよい。

（２）清瀬小学校の特長

特別支援教育

- ・現在は特別支援学級に在席している児童も普通学級の児童と分け隔てなく関係ができていて、交流し、一緒に育っている。
- ・以前から清瀬小に関わってきて、特別支援学級があることはよいところの一つではないか。子ども同士が肩肘を張ってなく、お互いを受け入れている印象がある。

（３）授業のあり方

- ・少人数授業を増やしてほしい。
- ・タブレットを使った授業は楽しいと子供から聞いているが、更に活用した活動があるとよい。一方でタブレットの持ち帰りは大変だ。

（４）現在の施設環境の課題/新しい施設の要望

教室/教室まわり

- ・ある時期に廊下に荷物を置くこともあるが教室前の廊下は狭い。廊下を広くしたい。
- ・ロッカーが昔のサイズであり、ランドセルを入れるといっぱいで、他にものを置く場所がな

1 章 策定委員や学校関係者の要望等

い。

- ・可動ロッカーとし、ロッカー自体が間仕切りになるなどもあり得る。
- ・リラックスできる場所をつくってほしい。(おしゃべりができる居場所、カフェ的なスペースの設置など)
- ・情緒障害の特別支援学級は、音などの刺激に配慮した環境が必要である。
- ・時代に応じた変化に対応可能なフレキシブルな環境づくりを望む。
- ・教室は学びの場所であると共に、個人面談などを行う場合もある。いつでもどこでも誰でも声が聞こえるオープンな環境だけではなく、閉じることもでき、オープンにもなり得る双方の使い方が可能な環境が必要である。
- ・オープンスペースなど教室まわりにも書架が置かれることで、学びの幅が広がる。
- ・学年5クラスになった場合でも、多目的スペースの有効活用や、小教室2室を隣り合わせにして、可動間仕切りを開放すると1教室として一体利用できるなどの工夫ができるとよい。

学校図書館/図書スペースのあり方

- ・教室まわりと同様に、色々な面でフレキシブルであるべきだと思う。固定された書架だけではなく、書架を可動とし配置替えによりオープンなスペースとしても使えるなど、様々な使われ方が期待される。
- ・学校中の色々なところに図書が置かれるなど、図書室内に限らない書架配置のあり方も必要ではないか。

発表の場

- ・発表活動ができる階段状のホールが2か所ほしい。
- ・図書館に近接することで活用できる。
- ・図書館に階段ホールを組み合わせると授業の流れで発表活動などが行えるため使い勝手がよい。また階段ホールには視聴覚機能は必要だ。何もない白い壁面やスクリーンがあればプロジェクターで投影しやすい。

トイレ/水まわり/更衣スペース

- ・トイレをきれいにしたい。
- ・トイレや手洗い場、更衣室は、児童数に見合った数量を設置してほしい。また十分な広さを確保し、子供たちが入りやすい環境を整えてほしい。
- ・男子でも洋便器に座って用を足す子も増えていると聞く。個別ブースの数を増やすなども検討していく必要がある。
- ・現校舎では更衣室が課題となっている。低学年でも男女別に更衣室が必要である。

管理諸室

- ・職員室は机間が狭く、すれ違うことも難しい。外部の指導者や時間講師の方々が使う机も職員室内に用意しており、机ばかりで職員室が手狭である。配線も多く、ガムテープで固定しているが、剥がれたり躓いたりするため危ない。
- ・職員室にはもはや個人机は必要ないのではないか。個人に割り当てられる校務用ノートPCの使用が個人机で限定される点を改善してほしい。先生方が協働しやすい執務環境が整えられるとよい。

- ・ 個人用ワゴンを用意して、そこに校務用 PC を保管してもよいのでは。
- ・ 同じテーブルを規則正しく並べるだけでは結局席が固定化される。テーブルにも選択肢があるような構成にする必要がある。

（５）地域開放施設/地域開放のあり方・方法

- ・ 家庭科室等を地域開放する場合は、衛生面や安全面、運営面の検討が必要である。
- ・ 家庭科室は授業の稼働率が低いので体育館に近接した 1 階に設けて地域利用が図れるとよい。
- ・ 貸出手続きをスマートフォンで行えるようにできると便利だが、高齢者は ICT を使いこなせないで、高齢者でも使いやすくなる工夫が必要だ。
- ・ 個人情報保護の観点から、地域開放利用者の情報をどのように守っていくかが課題になる。
- ・ 管理人の常駐が最も理想的だ。

（６）地域による学校支援/地域と学校の協働

- ・ PTA などの組織を含めて地域社会で子供を育てる、地域みなさんが関わるような場面が求められる。
- ・ PTA も小中学校で連携できるとよい。活動内容が違うこともあり、今は連携できておらず、学校支援本部がサポートしてくれている。従来の大変な PTA 活動のイメージを変えて、多くの保護者参加を促したい。
- ・ 学校支援ボランティアの参加が少ないという課題は ICT の活用を図ることで改善できるのではないか。
- ・ 地域向けのセミナー等を行う事で保護者の参加を促すことができるとよい。世代に応じたテーマがあると参加者が多くなりそうだ。学校に入りやすくなるソフトの取り組みがあるとよい。

（７）大規模災害時の備え/避難所

- ・ 災害時には誰もが使用でき、学校再開後も支障なく使用可能な施設づくりが考えられるとよい。
- ・ 震災時に避難所となった家庭科室を学校再開の折に避難者が明け渡してくれないという課題があったと聞く。避難所として利用する場合は運営面の課題も検討できるとよい。
- ・ 災害時に避難所として学校を使用する場合、どこの教室をどこまで使用できるか明確にし、使用することを前提に環境づくりを行う必要がある。
- ・ 利用者や鍵、子供の個人情報などの管理がきちんとできるような施設にしておくことが重要である。
- ・ 教室まで避難所の使用を想定する場合、児童の私物や学校の物品等が、避難者の持ちものと混同し紛失されてしまうことがないように、収納方法なども検討が必要である。また掲示物には、子供たちの名前が記載されている場合も想定され、個人情報を管理できるようにカーテンなどで目隠しするなどの配慮も必要だ。
- ・ 自家発電装置があるとよい。
- ・ これまでの震災では大規模災害の際に学校の早期再開が地域の方を力づけることになったと聞く。早期再開ができるようになるためには、避難所と学校の使い分けが大切だ。例えば再開後

1 章 策定委員や学校関係者の要望等

には校長室や職員室などに避難者が入れないようにすることも大切である。

- ・避難所としてどの範囲をどの様に使いたいかなど、防災活動や避難所運営の委員の方にも意見をお聞きし、検討を進めていく必要がある。
- ・避難訓練ができるような場所も設けられるとよい。
- ・非常食をつくり配食する体験など、学校教育の中で子供たち自ら避難所運営体験ができるとよい。

(8) 防犯/安全対策

- ・現在の3か所の校門は目が届きにくい。改善したい。
- ・児童の登下校時の見守りシステム「ついたもん」については市全体で対応を要望したい。
- ・入館管理がしやすいようにカードをかざして開閉できるシステムの導入が検討できるとよい。
- ・(清瀬第八小学校と統合すると)通学区域が広がるので、通学路の安全性も課題である。

(9) その他

外構計画/街路空間デザイン

- ・外構フェンスをなくし、校舎自体がフェンスを兼ねる造りもよい。
- ・市役所の景観と合わせて整備できるとよい。

中学校の施設環境改善

- ・中学校の学校支援本部で図書室を改装したが、中学校も環境を整えられるとよい。

(10) 小中一貫教育について

策定委員会において、清瀬市における小中一貫教育の導入可能性について各委員から意見を募った。小中のつながりを活かした教育活動は大切とされたが、校区の問題や地域性、学校選択制といった制度の問題、そもそも小中一貫教育の取り組みが分からないという意見が挙がり、全市的な検討課題であるとした。

こうした意見を受けて教育委員会で諮った結果、全市で小中一貫教育に取り組むとされたが、導入に向けて、小中の連携や同じ中学校区の小学校同士の連携をさらに充実させていく必要があること、また小中一貫教育導入に関する課題やその解決策について、多様な立場の委員で構成する検討委員会を設け、丁寧に議論していく必要があることが確認された。

2 章 配置計画案

策定委員会において、配置計画をその建て替え計画の考え方を含めて4案検討した。検討結果を示す。

これらの配置案について策定委員や教職員の意見を参考として総合的に比較検討した上で1案に絞り込み、設計につなげることが望まれる。

2－1 配置計画の検討条件

配置計画案は建物ボリュームや校庭の広さなどについて次に示す共通の考え方に基づいて比較検討した。

①校地

- ・小中の校地を一体で捉える。最良と考えられる配置を検討する上で中学校体育館の建て替えも可として検討する。

②建物

- ・接地性を考慮し校舎は3階建て程度とする。

③校庭

- ・小学校は150mトラック、中学校は200mトラックを敷ける広さを確保する。
- ・テニスコートは2面確保する。

④工事中の教育環境

- ・原則として、体育館は小中共に工事中も利用できるように建て替え計画を検討する。

2－2 配置計画の方針

策定委員会等の議論を通して配置計画の方針を次のように定める。

①アプローチ・広場など

- ・正門は利用者が分かりやすく学校から視認性が確保された位置とし、安全面に配慮してゆとりを確保する。
- ・児童生徒が共用可能な見通しの良いアプローチ空間とする。
- ・歩車分離を徹底し、給食等のサービス動線と通学用のアプローチは別に設ける。
- ・樹木や菜園等をアプローチ沿いに配置し、季節感が感じられる歩行空間とする。
- ・校外学習等に利用するスクールバスの停車スペースを確保する。

②既存樹木の保全や校庭等の緑化計画

- ・小学校校庭西側にある大イチョウなど校地周辺の既存樹木を出来る限り伐採せず配置計画に活かす。
- ・校庭の一部を芝生化していることを積極的に捉え、校庭の全面的芝生化を検討する。

③校舎等の形状・構成

- ・周辺住宅地のスケールと調和し、児童が圧迫感を感じない建物形状・構成・高さとする。
- ・中庭等を設けることにより、自然通風・採光に配慮した構成とする。
- ・管理諸室から校庭やアプローチの視認性を確保する。
- ・校舎と校庭は児童が行き来しやすいようにする。

④清瀬中学校校舎との接続

- ・清瀬中学校の校舎と新校舎をつなぎ、給食の運搬がスムーズに行え、小中の教育活動の連携が日常的に行いやすいようにする。

⑤まちづくりへの貢献

- ・子育て支援センターのある清瀬市しあわせ未来センターとの連携を考慮した配置とする。
- ・周辺道路の歩道整備に合わせて市民に開かれた広場を整備するなど、市役所とともに清瀬市の中部地区の中核として都市アメニティを向上する。清瀬市の顔となる市役所通りの街路デザインに寄与する。
- ・市役所通りは「みどりの軸」として都市計画で位置付けている 3・4・24 号清瀬駅下清戸線（けやき通り）と 3・4・26 号久米川駅清瀬線（柳瀬川通り）をつなぐ「新たなみどりの軸」として沿道緑化を図る。

2－3 配置計画/建て替え計画案

策定委員会等を通してまとめた配置計画3案を次に示す。北東配置案については建て替え計画の違いから2案示す。これらの案を総合的に比較検討し、1案に絞って設計に臨むことが望まれる。

A-南東配置案（現在の清瀬小学校校庭に新校舎を建設）

○考え方

配置計画

- ・現校庭に新校舎を建設する。
- ・新アプローチを現在の中学校のアプローチに真っ直ぐつなぎ、東西両方向からアクセスできるようにする。

建て替え手順

- ・新校舎の工事は2期工事に分けて行う。
- ・中学校体育館を現テニスコートの位置で改築し、1期工事期間中は既存中学校体育館を小学校が利用することで既存小学校体育館を先行解体し建設用地に充てる。
- ・2期工事期間中は1期工事の新校舎と既存校舎を併用する。

○主な課題

- ・校庭が新校舎の北側となる。
- ・南東角の住宅に新校舎が近接する。
- ・工事期間中を通じて校庭が利用できないため、中学校の校庭を借りる必要がある。
- ・工事期間中にテニスコートがなくなるため、中学校校庭の一部にテニスコートを設けるなど工夫する必要がある。

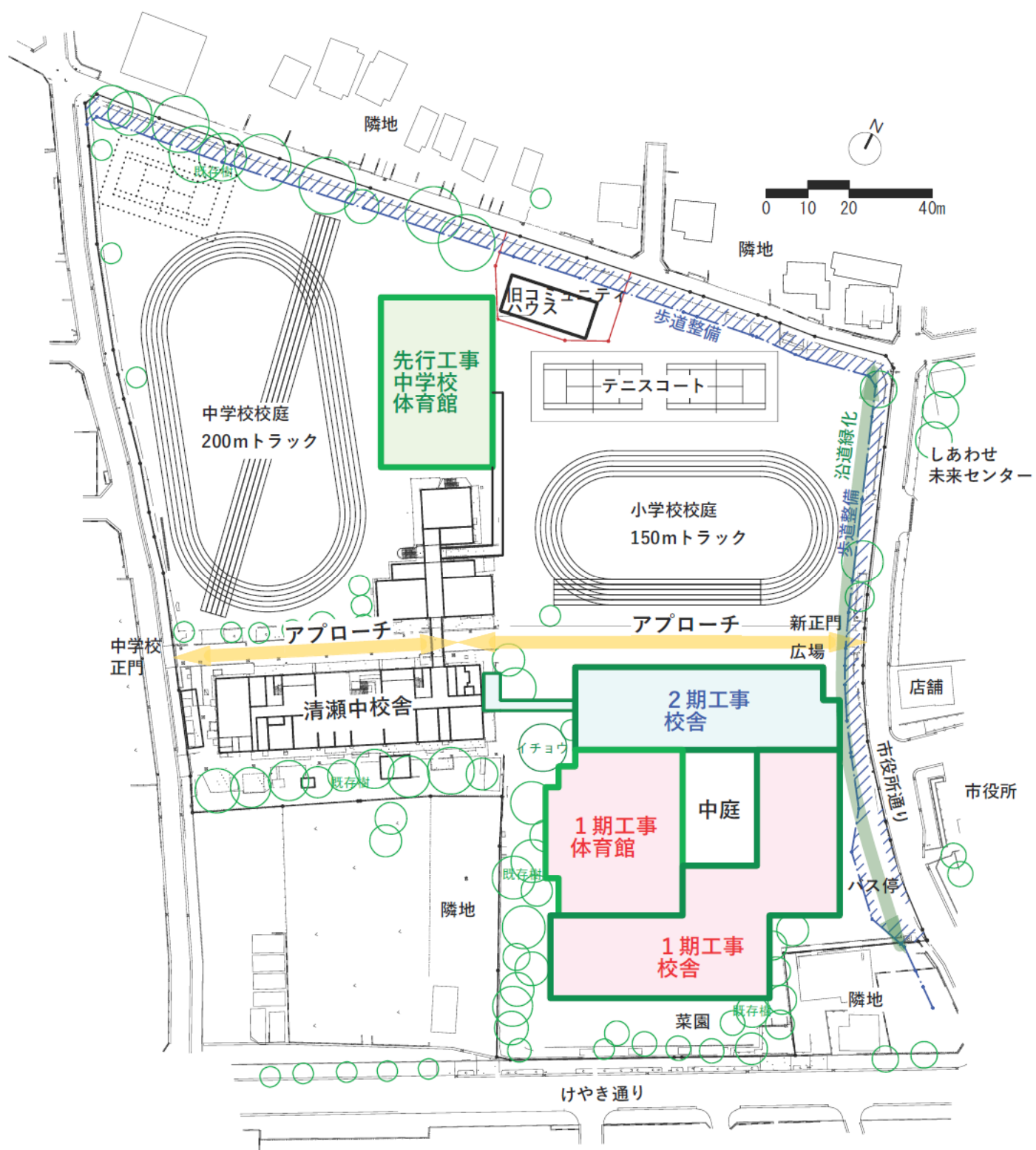
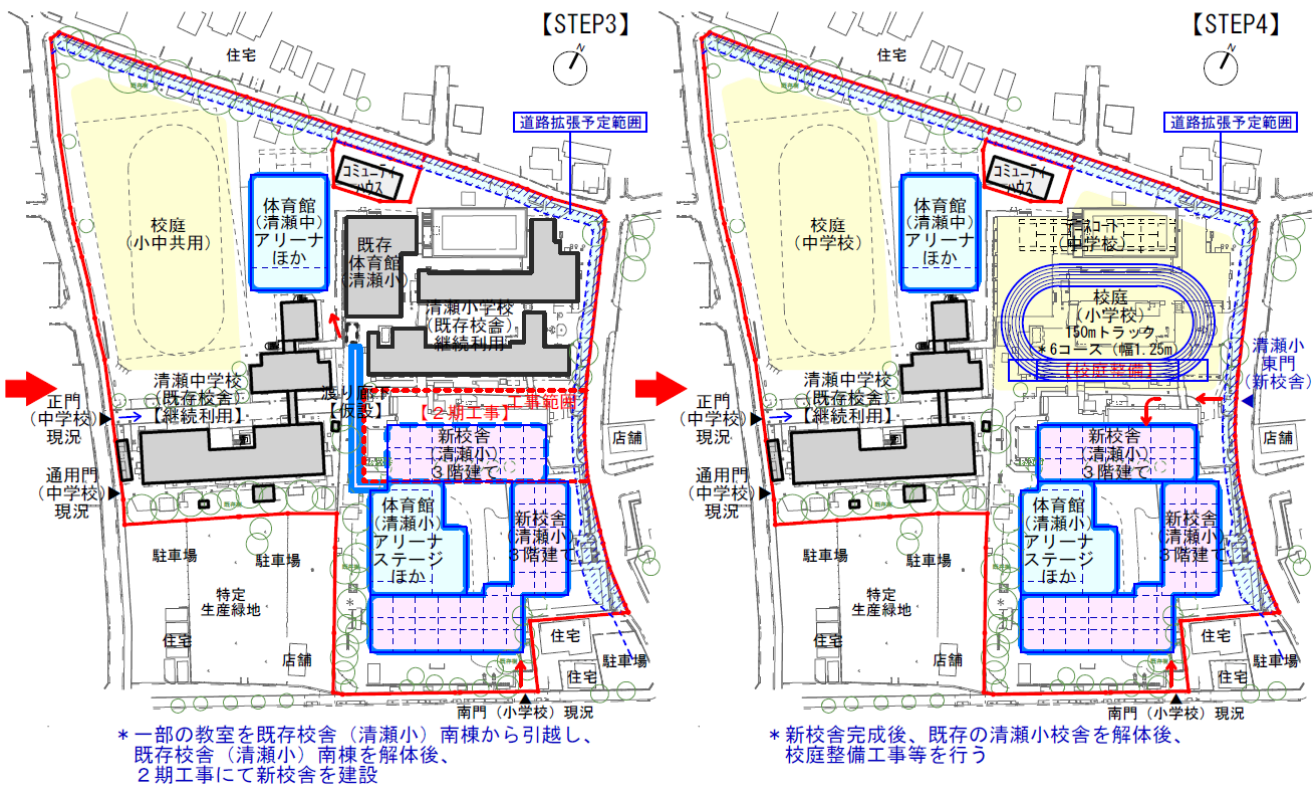


図.A-南東配置案



- 33 -

B-北東配置案（現在の清瀬小学校校舎の位置に新校舎を建設）

○考え方

配置計画

- ・現校舎位置に新校舎を建設する。
- ・新アプローチを現在の中学校のアプローチに真っ直ぐつなぎ、東西両方向からアクセスできるようにする。
- ・市役所通りを挟んでしあわせ未来センターと近接することを活かし、機能連携を図る。

建て替え手順

B①-仮設校舎なし案

- ・新校舎の工事を2期工事に分けて行う。
- ・中学校体育館を現テニスコートの位置で改築し、1期工事は既存中学校体育館と既存中学校プールの跡地を建設用地に充てる。
- ・2期工事は中央と北側の既存校舎を解体し建設用地に充てる。工事期間中の学校施設は1期工事で完成した新校舎と南側の既存校舎（管理諸室・4年生教室・図書室）、既存体育館を併用する。

B②-仮設校舎あり案

- ・中学校体育館を現テニスコートの位置で改築し、既存中学校体育館と既存中学校プールの跡地を建設用地に充てる。
- ・現校庭に5学年分の教室と特別教室を設けた仮設校舎を建設し、南側に位置する既存校舎（管理諸室・4年生教室・図書室）と既存体育館を工事期間中の学校施設とする。中央と北側の既存校舎は解体し建設用地に充てる。

○主な課題

- ・北側隣地（住宅地）に対する日影規制や防音対策に十分な配慮が必要となる。

建て替え手順

B①-仮設校舎なし案

- ・工事範囲が既存校舎に近接するため、工事騒音や振動、安全対策を十分行った上で施工する必要がある。
- ・2期工事期間中は北側の新校舎から既存体育館まで移動距離が長くなるため、中学校の新体育館を活用するなどの運営の工夫も求められる。

B②-仮設校舎あり案

- ・仮設校舎の整備面積を抑制するための創意工夫が必要になる。例えば中学校の特別教室を借用する、給食調理室を中学校体育館と合わせて先行整備するといったことが考えられる。

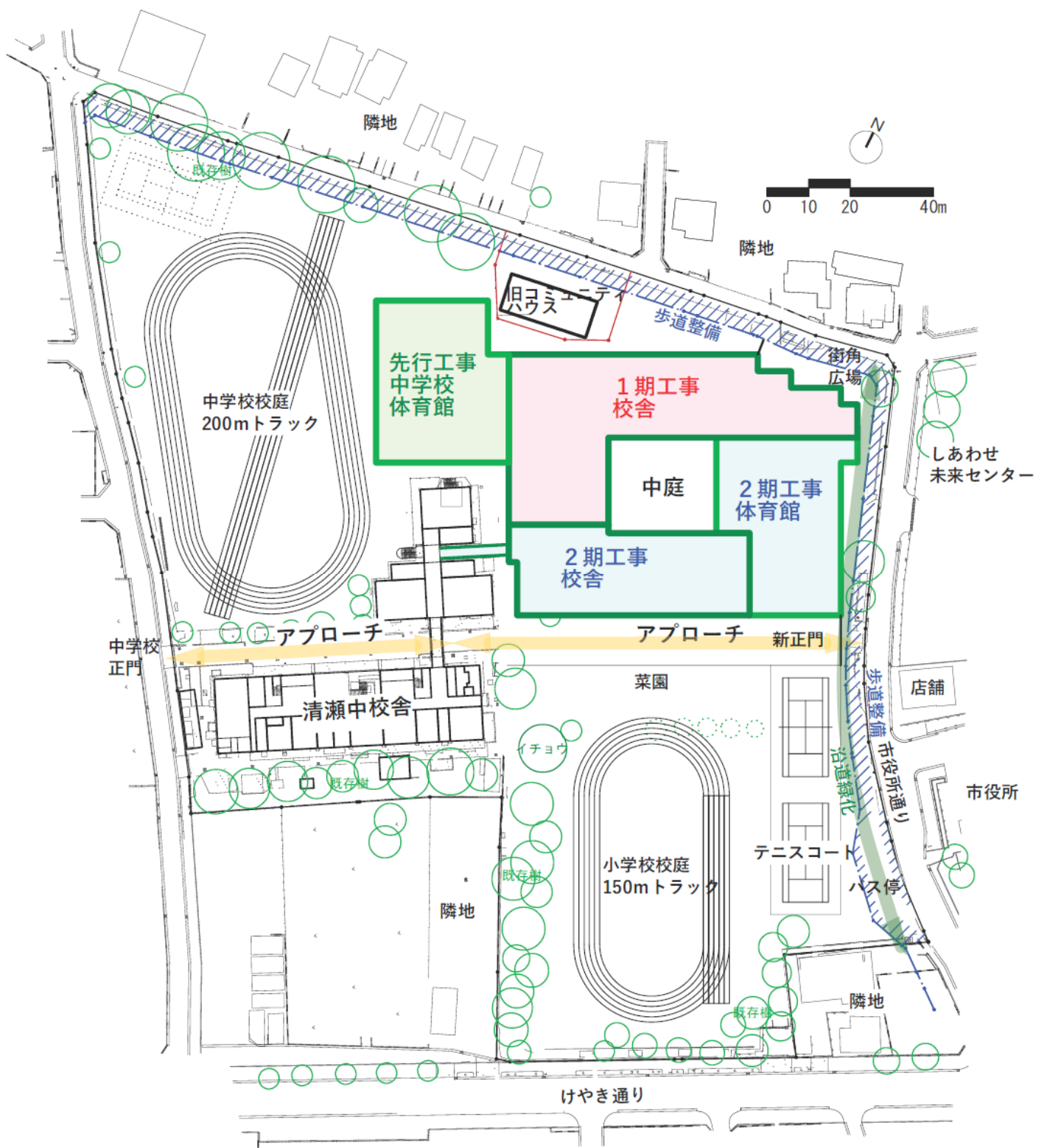
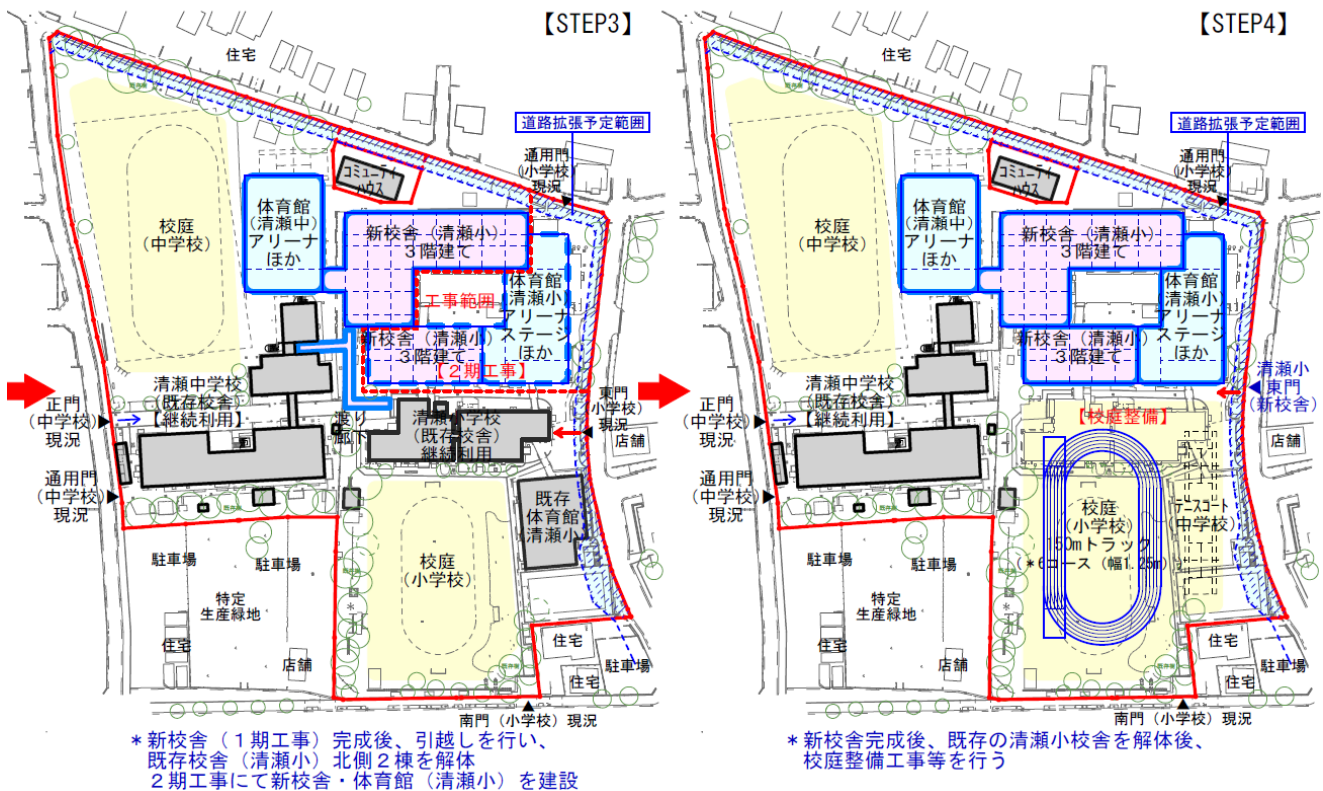


図.B①-北東配置（仮設校舎なし）案



- 36 -

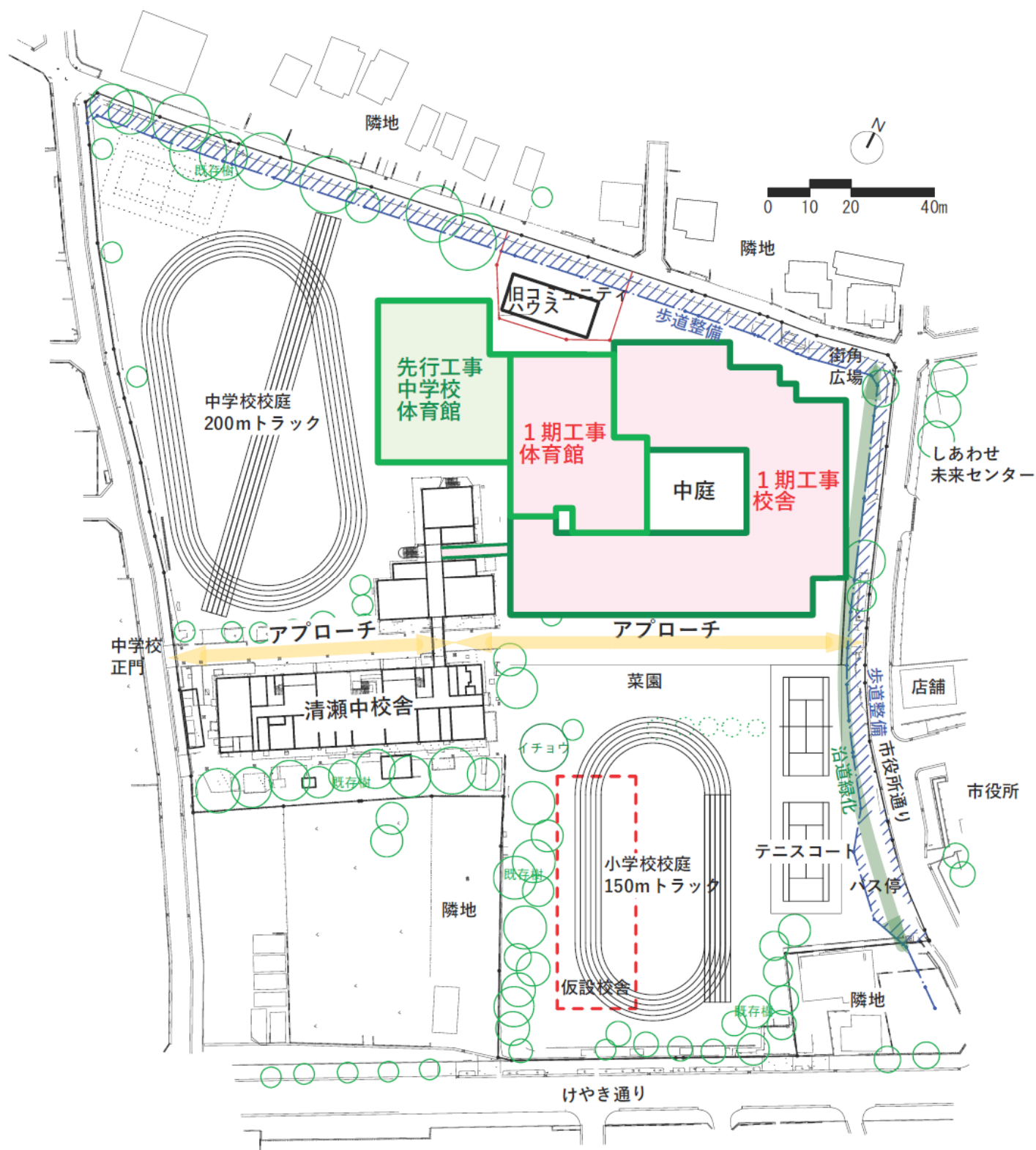


図.B②-北東配置（仮設校舎あり）案

2 章 配置計画案

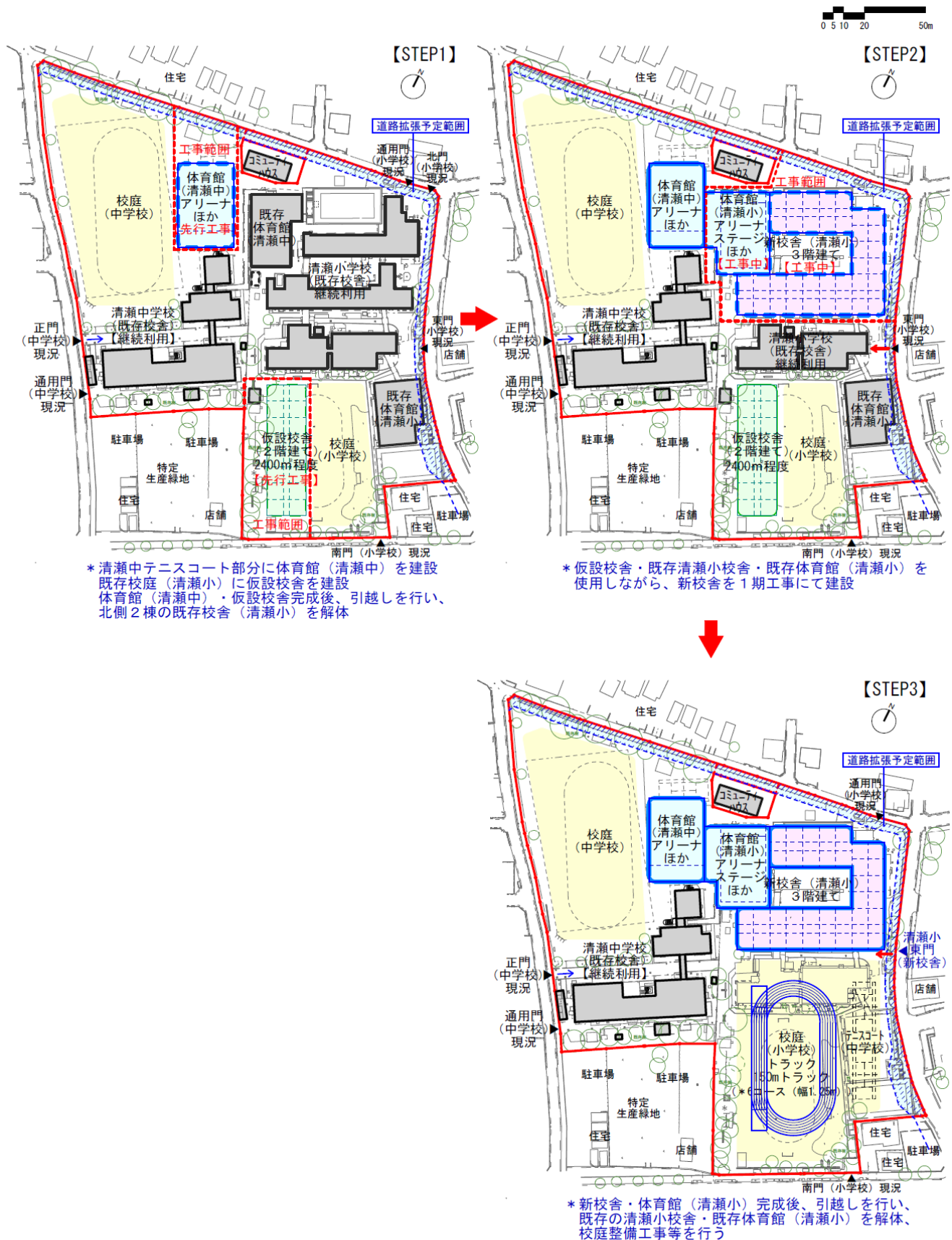


図.B②-北東配置（仮設校舎あり）案における建て替え計画案

C-北西配置案（現在の清瀬中学校校庭の位置に新校舎を建設）

○考え方

配置計画

- ・清瀬中学校の現校庭に新校舎を建設する。
- ・校庭は小中一体とする。
- ・小中共用の中庭を設ける。

建て替え手順

- ・新校舎の工事は中学校体育館をまとめて1期工事で行う。

○主な課題

- ・小学校のアプローチが北方向に限定される。
- ・北側隣地（住宅地）に対する日影規制や防音対策に十分な配慮が必要となる。
- ・中学校校庭北側の既存樹木の保全に対策が求められる。
- ・工事期間中を通じて中学校は校庭とテニスコートが利用できない。

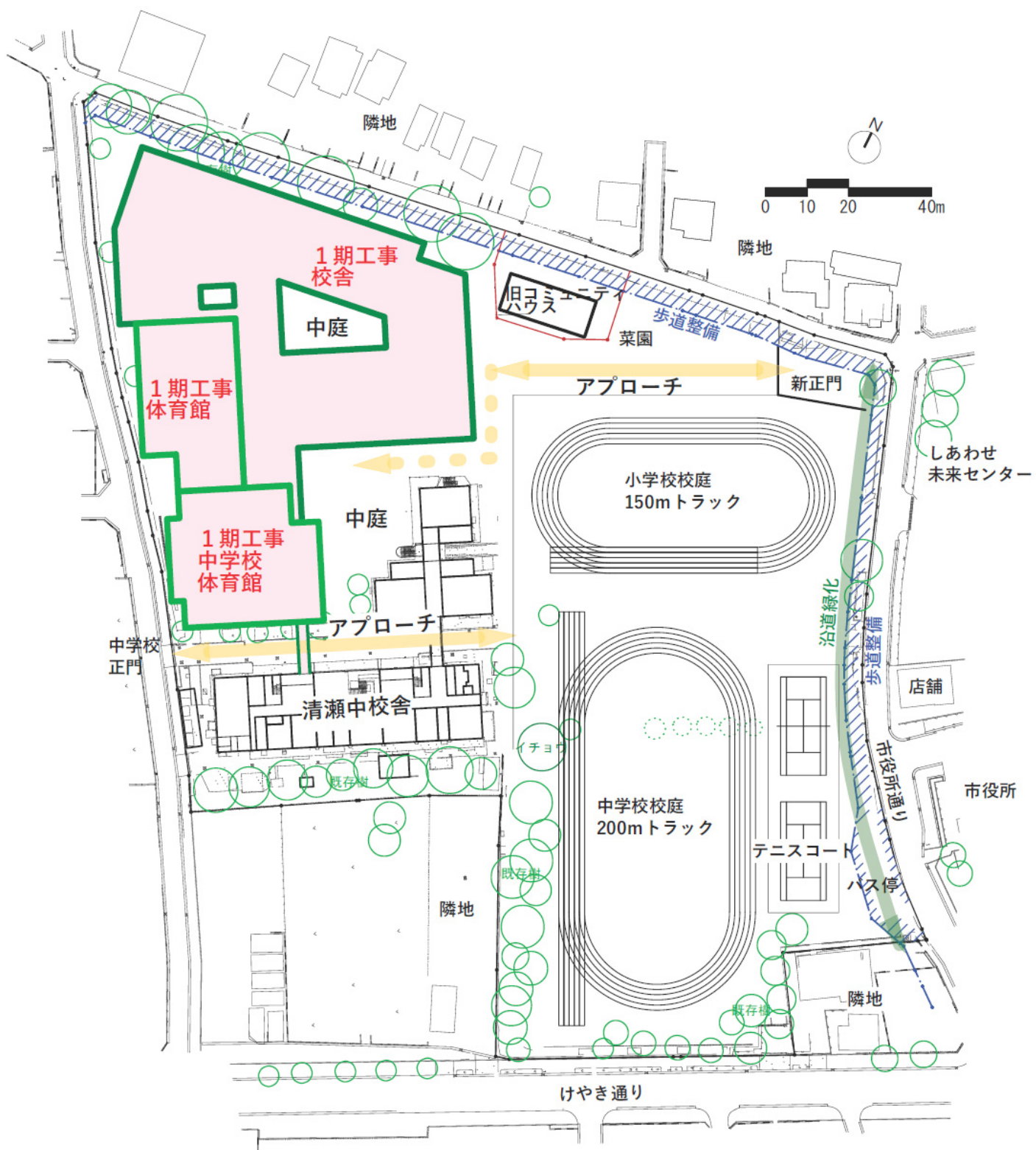
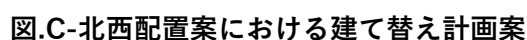


図.C-北西配置案



配置計画案に対する策定委員の意見要望を次に示す。これらの意見も踏まえて配置を決定することが望まれる。

- ・南側校庭、北側校舎配置が望ましい。北側校庭となる A 案は日当たりが悪いので厳しい。清瀬中学校の校庭は西日が当たるので北側でもあまり気にならないが小学校の校庭を北側に置く A 案は中学校の校舎の日影にもなるので西日も当たらない。
- ・小中一体の教職員組織化など小中一貫教育の方向性が明確に定まり、かつ中学校の利点があれば可能性もあるが、小学校の建て替え事業にも関わらず、中学校への負担や支障が大きくなる C 案は考えにくい。

- ・地域に開かれた学校という点でも、バス通りから校庭で子どもたちが活動している様子が見えた方がよい。
- ・防犯上、けやき通りから校庭の見通しが良すぎることも課題ではないか。丁度道路側の目線の高さに現在の校庭がある。南側に校舎を建てることで目隠しになるのではないか。

2章 配置計画案

建て替え計画

- ・別敷地の空き校舎などを活用し、一気に建て替える方法もあるのではないか。
- ・工事期間中に校庭や体育館など市内の他施設を利用できないか。

工事期間

- ・工事期間は4年掛かるより2年間で済む方がよい。小学校の6年間のうち4年間で工事中だったということはよくない。工事期間は短い方が子どもたちにとって負担が少ない。
- ・工期が不足し、不具合が生じることの無いようにしてほしい。

工事期間中の教育環境

- ・体育館は工事期間中も必要である。
- ・A案・C案は校庭が使えない期間が長くなる点が大きな課題だ。
- ・B案は校舎の間近で建設工事を行うため、解体時や建設時の騒音対策等の課題を考えていく必要がある。
- ・清瀬中学校のテニス部は、外部の指導者も入り活発に活動している。工事中も1面でもよいのでテニスコートが確保できるとよい。
- ・近接する中学校への影響を最小限にすることが重要である。中学校の受験前の期間は、騒音・振動が発生する工事を避けるなど配慮してほしい。
- ・校庭を使用する行事も多く、校庭が使用できない期間を出来るだけ少なく済むようにすることが大切である。子供たちが元気に遊べる校庭の確保が望まれる。
- ・中学校では部活動も活発であり、工事期間中に中学校の校庭が使用不可となるのであれば、代替地の確保など対策を講じる必要がある。
- ・B案は工事中の安全対策や校庭移動時の安全確保についても配慮してほしい。
- ・特別支援学級の児童生徒は音に敏感な子もいるため、工事期間中の騒音や振動に特に配慮してほしい。
- ・年度中に校庭利用方法や行事の場所などで大幅な年間指導計画の変更が生じない建て替え計画が望まれる。

(5) 清瀬小学校教職員の意見要望

配置計画案に対する清瀬小学校教職員の意見要望を次に示す。これらの意見も踏まえて配置を決定することが望まれる。

配置計画案

- ・現在の清瀬中は北側校庭であり、バス通り側（南側）に対して開かれているイメージがない。一方、清瀬小は南側に校庭があり、バス通りに開かれている。また日が当たるので明るいイメージがある。A案（北側校庭配置）はバス通りに対して開いていない。
- ・A案は市役所通りに校舎が近接しており、危険な印象を受ける。
- ・A案のように北側校庭にした場合、校舎の近くは積雪時に雪が溶けにくい。昇降口が奥の方にあると凍ったアプローチを通らなければならないため支障が生じる。できるだけ手前で校舎に入れたい。

- ・ C 案は小学校が北側の奥まった隅にある印象を受ける。

工事期間中の教育環境

- ・ 工事期間中に中学校の校庭が利用できないという選択肢はないのではないか。

周辺道路環境整備とアプローチ計画

- ・ 市役所通り側に歩道を整備するということだが、南側のバス通りの歩道の幅員程度は確保してほしい。子どもたちの登下校の安全性を考慮した場合、歩道が明確に確保できることが前提となる。南東角の民地でも道路を拡幅し歩道をしっかり整備できるかどうかでアプローチの考え方も変わるのではないか。南東角地が一番危険だが、そこに歩道が設けられないと東側に正門を持ってくることは難しい。現在と同様に南門を正門と位置付けてメインアプローチとした方が良い。

(6) 配置計画案の比較

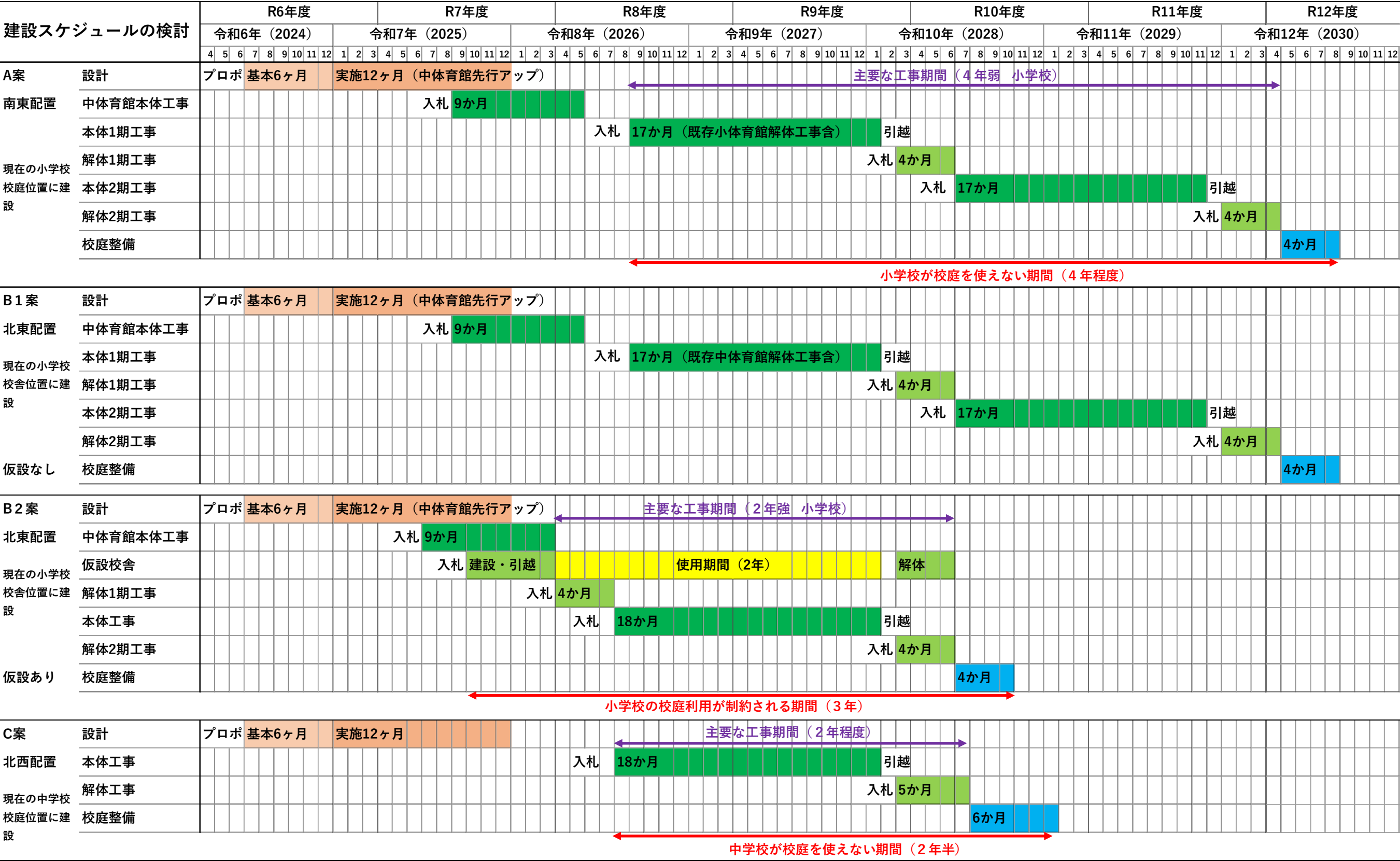
次頁に配置計画案 4 案の比較表を示す。

表.配置計画案の比較

	A案. 南東配置（現小学校校庭に建設）	B案. 北東配置（既存校舎位置に建設）		C案. 北西配置（中学校校庭配置）
		①案. 仮設校舎なし	②案. 仮設校舎あり	
配置計画案				
建て替え計画	・ 2 期工事（小学校）	・ 2 期工事（小学校）	・ 1 期工事（小学校）	・ 1 期工事（小学校）
整備完了想定時期	・ 新校舎 令和12年1月運用開始 ・ 新校庭 令和12年9月運用開始	・ 新校舎 令和12年1月運用開始 ・ 新校庭 令和12年9月運用開始	・ 新校舎 令和10年4月運用開始 ・ 新校庭 令和10年12月運用開始	・ 新校舎 令和10年4月運用開始 ・ 新校庭 令和11年2月運用開始
工事中の教育環境	・ 主要な工事期間 4年弱_小学校 ・ 2 期工事中は新校舎と一部既存校舎を併用するため、動線に工夫を要する ・ 小学校の校庭が 4 年程度利用できない	・ 主要な工事期間 4年弱_小学校 ・ 2 期工事中は新校舎と一部既存校舎を併用するため、動線に工夫を要する ・ 工事場所が既存校舎に隣接するため、防音・振動対策等に工夫を要する	・ 主要な工事期間 2年強_小学校 ・ 工事中は一部既存校舎と仮設校舎を併用（工事は北側で完結） ・ 仮設校舎を整備するため小学校の校庭は現状の半分程度の面積となる	・ 主要な工事期間 2年程度_小学校 ・ 中学校の建て替え工事でないにも関わらず、中学校の校庭が 2 年半程度利用できない ・ 中学校の校庭が利用できない期間中、体育や部活動の活動場所を移動手段とともに別に確保する必要がある（学校並びに保護者の合意が不可欠）
計画の自由度	・ 東西の隣地に面した建物配置となるため、隣地斜線に対して上階をセットバック（後退）するなど法的課題を解決する必要がある	・ 北側住宅地へ日照等の配慮が必要となる ・ 1期工事で4 学年分以上の教室を整備する必要があるため、 特別教室や体育館の配置にも制約が掛かる ・ 旧コミュニティハウスとの関係を考慮した計画とする必要がある	・ 北側住宅地へ日照等の配慮が必要となる ・ 比較的整形でまとまった計画地が確保できるため、平面計画の自由度が高い。 ・ 旧コミュニティハウスとの関係を考慮した計画とする必要がある	・ 北側住宅地へ日照等の配慮が必要となる ・ 南側にある中学校校舎から体育館への動線確保、管理諸室からアプローチや小学校校庭への視認性の確保、 不整形な地形など、制約条件が多く、良好な配置・平面計画が難しい
利点	・ 小中校舎の前で東西をつなぐ一体的なアプローチ空間が整備できる。 ・ 小中の校舎が隣接するため、管理諸室の連携が行いやすい配置ができる。 ・ 市役所通り側に開放施設を配置することで市役所通りの公共性を高めることができる。	・ 小中校舎の前で東西をつなぐ一体的なアプローチ空間が整備できる。 ・ 中学校の特別教室/図書棟と新校舎の機能連携を考慮した計画ができる可能性がある。 ・ 建て替え中も校庭を利用できる。 ・ 市役所通り側に開放施設を配置することで市役所通りの公共性を高めることができる。	・ 工事期間が短い。 ・ 小中校舎の前で東西をつなぐ一体的なアプローチ空間が整備できる。 ・ 通風や採光に配慮した教室配置が計画しやすい。 ・ 小中の体育館の共用が図りやすい。 ・ 市役所通り側に開放施設を配置することで市役所通りの公共性を高めることができる。	・ 工事期間が短い。 ・ 小中の体育館の共用が図りやすい。 ・ 中学校の既存校舎が改修できれば、小中一体的な校舎の計画が行える可能性がある。
課題	・ 隣地に対して圧迫感や音に配慮する必要がある。そのため隣地に面した教室配置は難しい。 ・ 道路に面した教室配置となるため防音対策が必要。 ・ 小中の体育館は離れるため相互利用は困難。 ・ 校庭が北側となることから、 冬季の校庭環境の悪化を懸念する意見が挙がっている。	・ 小体育館を 2 期工事で建てなければならないため、小中の体育館は離れた配置となり、連携利用は難しい。 ・ 北側の棟に 4 学年分の教室を配置する必要があるため、一部の教室で通風・採光の確保が行いにくい。 ・ 給食運搬など工事中の動線確保に工夫を要する。	□ 仮設校舎の計画 ・ 5 学年分の教室（20室程度）を整備する ・ 中学校の特別教室を借りることができれば整備面積を低減できる ・ 給食室を先行する中学校体育館と一体的に整備すれば、仮設校舎に給食室を整備しなくて済む	・ 中学校からの移動と北側隣地の日影対策から体育館を南側に配置するを得ない。そのため通風・採光を確保した教室配置が行いにくい。 ・ 小学校のアプローチが校地北側に制限される。また旧コミュニティハウスがあるため視認性が確保しにくい。 ・ 市役所通りと校舎の関係が作りにくい。
中学校建て替え後の姿	案①：中学校の新校舎を小学校の北側に建設し、現中学校校舎位置に小学校校庭を整備する ・ アプローチは市役所側のみとなる 案②：現中学校の位置に新校舎を建設する ・ 仮設校舎必要	案①：中学校の新校舎を小学校の西側に建設する ・ 新中学校校舎前の校庭の長辺方向が短い 案②：現中学校の位置に新校舎を建設する ・ 仮設校舎必要	案①：中学校の新校舎を小学校の西側に建設する ・ 新中学校校舎前の校庭の長辺方向が短い 案②：現中学校の位置に新校舎を建設する ・ 仮設校舎必要	案①：中学校の新校舎を北東側に建設し、現中学校校舎位置に小学校校庭を整備する ・ 中学校新校舎から体育館が遠くなる ・ アプローチの視認性が確保しにくくなる 案②：現中学校の位置に新校舎を建設する ・ 仮設校舎必要

2－4 建設スケジュールの検討

配置計画案 4 案の建設スケジュール案を示す。



※設計期間を各案共通とした。

2-5 平面計画案

(1) 平面計画案の考え方

各配置計画案の可能性と課題を検討するために、それぞれ平面計画案を作成した。各案共通の考え方と各案の考え方を次に示す。なお、平面計画案は設計の創意工夫を妨げるものではない。校地の可能性を捉え、各配置案の課題を見極める材料として設計のヒントになることを望む。

○ 各案共通

- ・ 通風・採光を確保するために中庭を設ける。中庭はみんなの憩いの場として心地良く過ごせる環境を用意する。また上履きでも利用可能な設えとして気軽に利用できるようにする。
- ・ また中庭に大階段を設けて発表の場としても利用できるようにするなど、教育活動に活かせるようにする。
- ・ 中庭に沿って動線を確保することで、利用者が移動している場所から中庭を介して校内全体の様子が把握できるようにする。
- ・ 4 学年（中高学年）を最上階（3 階）に配置することで北側の教室でもハイサイドライト（高窓）から自然採光が確保できるようにする。
- ・ 2 階に中学校の校舎とつなぐ渡り廊下を設ける。

課題

- ・ 市役所通りの校地側における歩道整備が隣地である南東角地において不可能となった場合は、メインアプローチをけやき通りから確保する必要がある。
- ・ 学童クラブについて、コミュニティハウスの施設をそのまま利用する可能性があれば、整備面積の見直しを含めて施設構成の組み立てから見直しを図る必要がある。
- ・ また、公共施設再編計画で定められている老人いこいの家などの公共施設を将来複合化する場合も、コミュニティハウスの施設を活用することが考えられるため、設計段階ではその可能性を担保して設計を検討することが望まれる。
- ・ なお、給食室は空調や換気扇、排気ダクトなどの設備整備で一般的な校舎の階高より高い階高を確保することが望ましい場合があるため、設計では早い段階から設備計画を同時に検討することが求められる。

○ A 案（南東配置 現在の校庭に建設）

1 階

- ・ 東側の市役所通りに面して図書室等を配置し、図書室に直接つながる地域玄関を設ける。
- ・ 体育館は中学校の利用も考慮し西側に配置する。
- ・ 家庭科室や音楽室等の地域開放を想定した特別教室を配置する。音楽室は楽器の運搬を考慮し体育館のそばに設ける。
- ・ 学童クラブ（放課後児童クラブ）は南側に配置し、けやき通りから入れるようにする。
- ・ 給食施設は南側に配置し、けやき通りから搬入動線を確保する。
- ・ 児童玄関は北東側に確保する。

2章 配置計画案

2階

- ・2階にある中学校の管理諸室との接続を考慮して小学校の管理諸室を2階に配置し、渡り廊下で行き来しやすいようにする。(1階に管理諸室を配置することもあり得る)
- ・低学年の教室を南東にL字型に配置する。
- ・理科室は中学校との連携を考慮し、渡り廊下のそばに設ける。

課題

- ・市役所通りの校地側における歩道整備が隣地である南東角地において不可能となった場合は、メインアプローチをけやき通りから確保し、全ての施設構成を見直す必要がある。
- ・現在は駐車場だが将来宅地化する可能性もあると考えられる西側隣地に対して教室を面しない構成としているが一考を要する。
- ・小中の体育館が離れるため、避難所利用を含めて相互利用は図りにくい。本案の場合は校庭との連携が図りやすい中学校体育館を主たる避難所とすることが妥当である。
- ・南東角地の住宅に対して隣地斜線等の法的対応だけではなく、音の伝搬や校舎からの見下ろしに対策が必要となる。

○ B①案(北東配置 現在の校舎の位置に建設 仮設校舎なし)

1階

- ・先行整備する中学校体育館を2階に配置し、その下に給食施設を設ける。搬入動線は北側道路から確保する。
- ・児童玄関の正面に図書室を設ける。中庭に面した吹き抜け空間とし、学校の中心と位置付ける。
- ・音楽室は楽器の運搬を考慮し体育館の近くに配置する。
- ・体育館は建て替え計画から市役所通り側に配置し、北東角に地域開放玄関を設ける。
- ・地域開放玄関の前は街角広場とし、一体的な利用も可能とする。
- ・地域開放玄関に面して家庭科室を設ける。
- ・学童クラブは北側に配置し、北側道路から入れるようにする。

2階

- ・2階にある中学校の管理諸室との接続を考慮して小学校の管理諸室を2階の南側に配置し、渡り廊下で行き来しやすいようにする。(1階に管理諸室を配置することもあり得る)
- ・理科室は隣接する中学校の理科室との相互利用を考慮し、南西角に設ける。
- ・1期工事で5学年分の教室を整備するために北側に2学年配置する。

課題

- ・1期工事で整備する教室数を確保するため、コミュニティハウスとの位置関係や北側住宅地への日影対応などを含めて北側の棟における教室配置に難がある。
- ・北側住宅地に対して、校舎からの見下ろしに配慮する必要がある。
- ・小中の体育館が離れるため、避難所利用を含めて相互利用は図りにくい。
- ・中学校を将来建て替える際、中学校の校庭北側に新校舎を建設する場合を想定して中学校体育館下のピロティを内部化して動線に充てられるようにしておくなどの対策を予め講じてお

く必要がある。

○ B②案（北東配置 現在の校舎の位置に建設 仮設校舎あり）

1 階

- ・ 先行整備する中学校体育館を 2 階に配置し、その下に給食施設を設ける。搬入動線は北側道路から確保する。
- ・ 2 学年（低学年）を南側に配置する。教室前に玄関テラスを設けて外から直接入ることができるようにする。（2 階に配置することも考えられる）
- ・ 市役所通りに面して図書室を設ける。吹き抜け空間とし、学校の中心であり、かつ地域に対する学校の顔となる施設とする。
- ・ 図書室に面した位置に地域開放玄関を設ける。玄関の前は街角広場とし、一体的な利用も可能とする。
- ・ 地域開放玄関に面して家庭科室を設ける。
- ・ 学童クラブは北側に配置し、北側道路から入れるようにする。
- ・ 体育館は西側に配置し、中学校体育館と相互利用がしやすいようにする。

2 階

- ・ 4 学年分の児童玄関を設ける。児童玄関には外階段でアプローチする。
- ・ 2 階にある中学校の管理諸室との接続を考慮して小学校の管理諸室を 2 階の南側に配置する。
- ・ 理科室は隣接する中学校の理科室との相互利用を考慮し、南西角に設ける。
- ・ 北側に音楽室、図工室を設ける。

課題

- ・ 北側住宅地に対して、校舎からの見下ろしに配慮する必要がある。
- ・ 中学校の校舎を将来建て替える際、中学校の校庭北側に新校舎を建設する場合を想定して中学校体育館下のピロティを内部化して動線に充てられるようにしておくなどの対策を予め講じておく必要がある。

○ C 案（北西配置）

1 階

- ・ 管理諸室は校庭とアプローチの視認性が確保できる東側角に設ける。
- ・ 中学校体育館は中学校校舎に近い位置に設ける。
- ・ 小学校体育館は中学校体育館の近くに設け相互利用がしやすいようにする。
- ・ 2 つの体育館の間に西側からのアプローチを確保する。
- ・ 地域開放玄関は西側道路に面して設ける。
- ・ 給食施設は北西角に設ける。
- ・ 学童クラブは北側に配置し、北側道路から入れるようにする。

2 階

- ・ 2 学年分の教室を北側に設ける。
- ・ 図書室は東側の中学校図書室のそばに設ける。

2 章 配置計画案

- ・音楽室と図工室は体育館の近くに設け、開放利用がしやすいようにする。

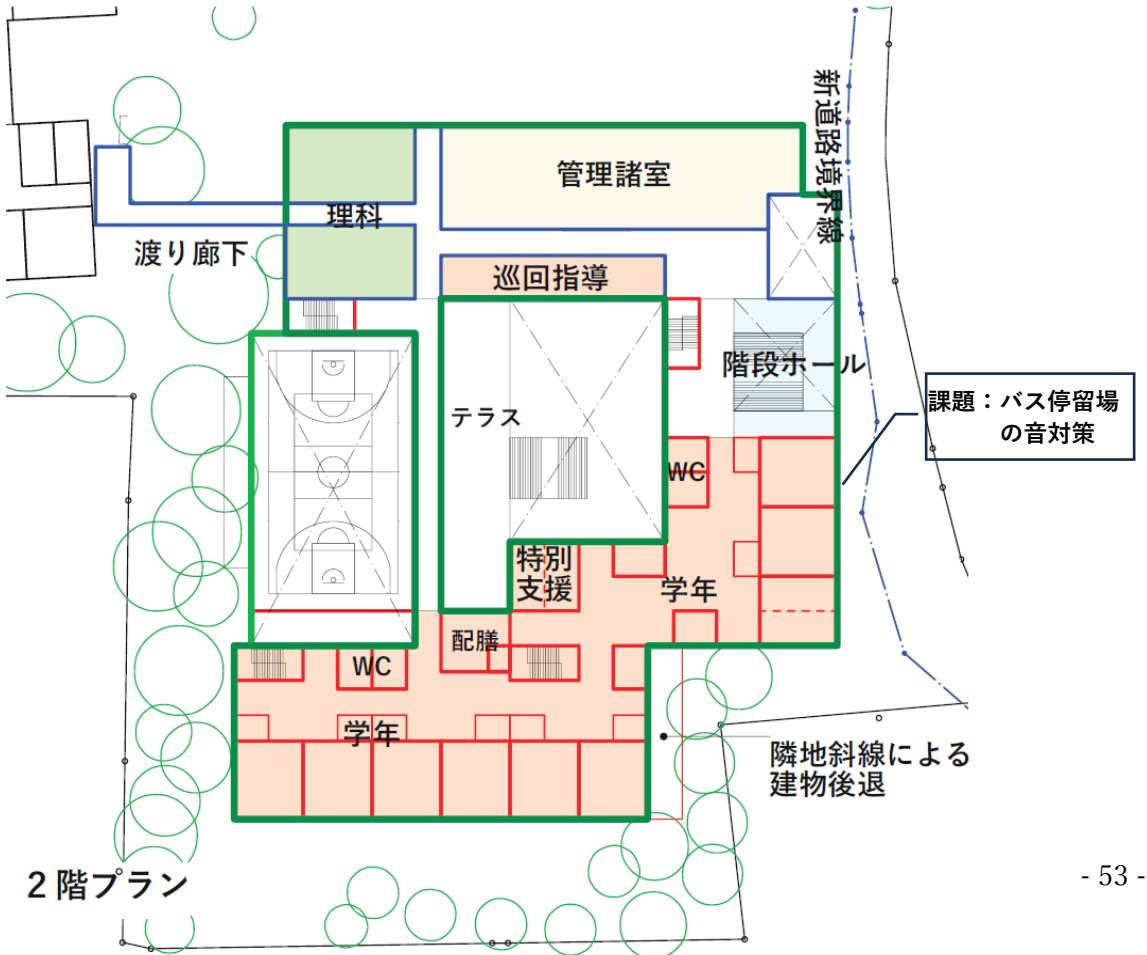
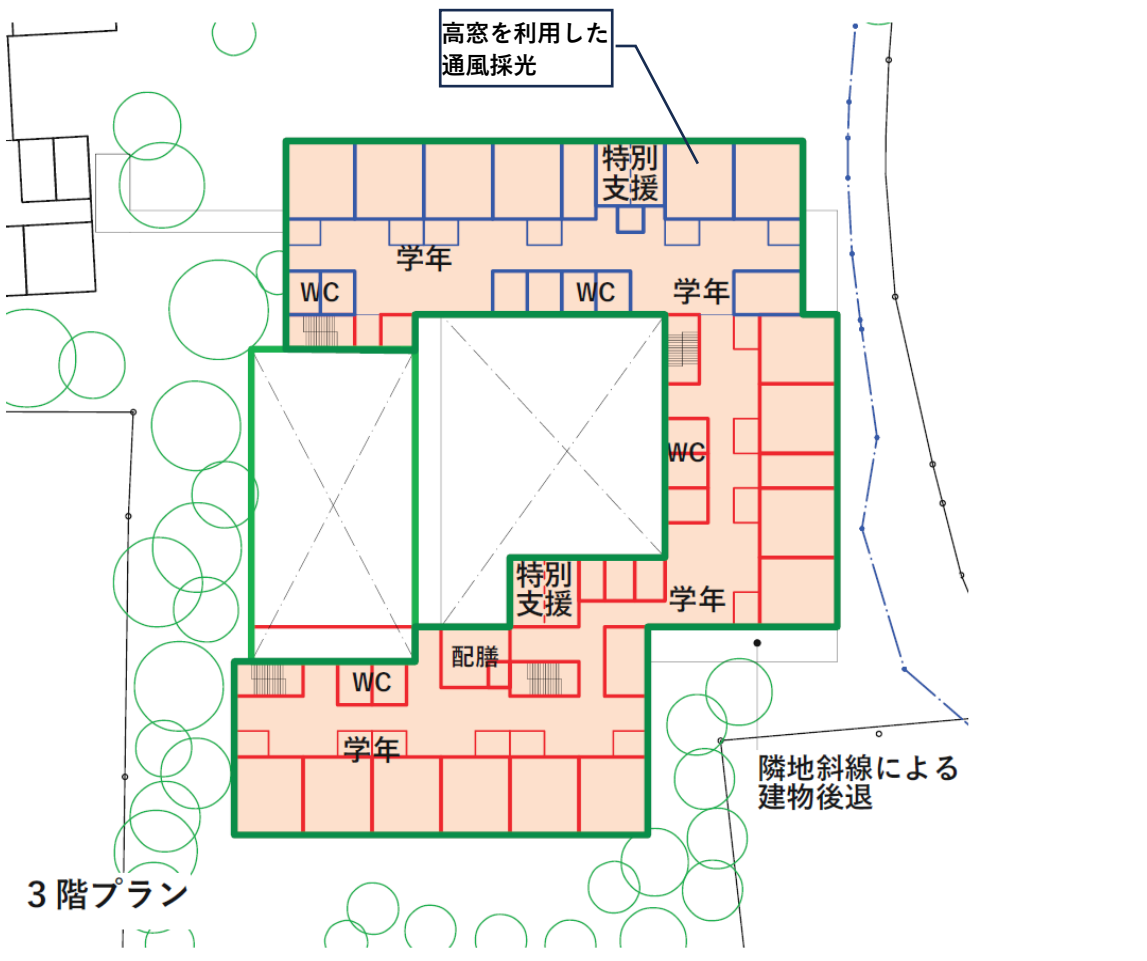
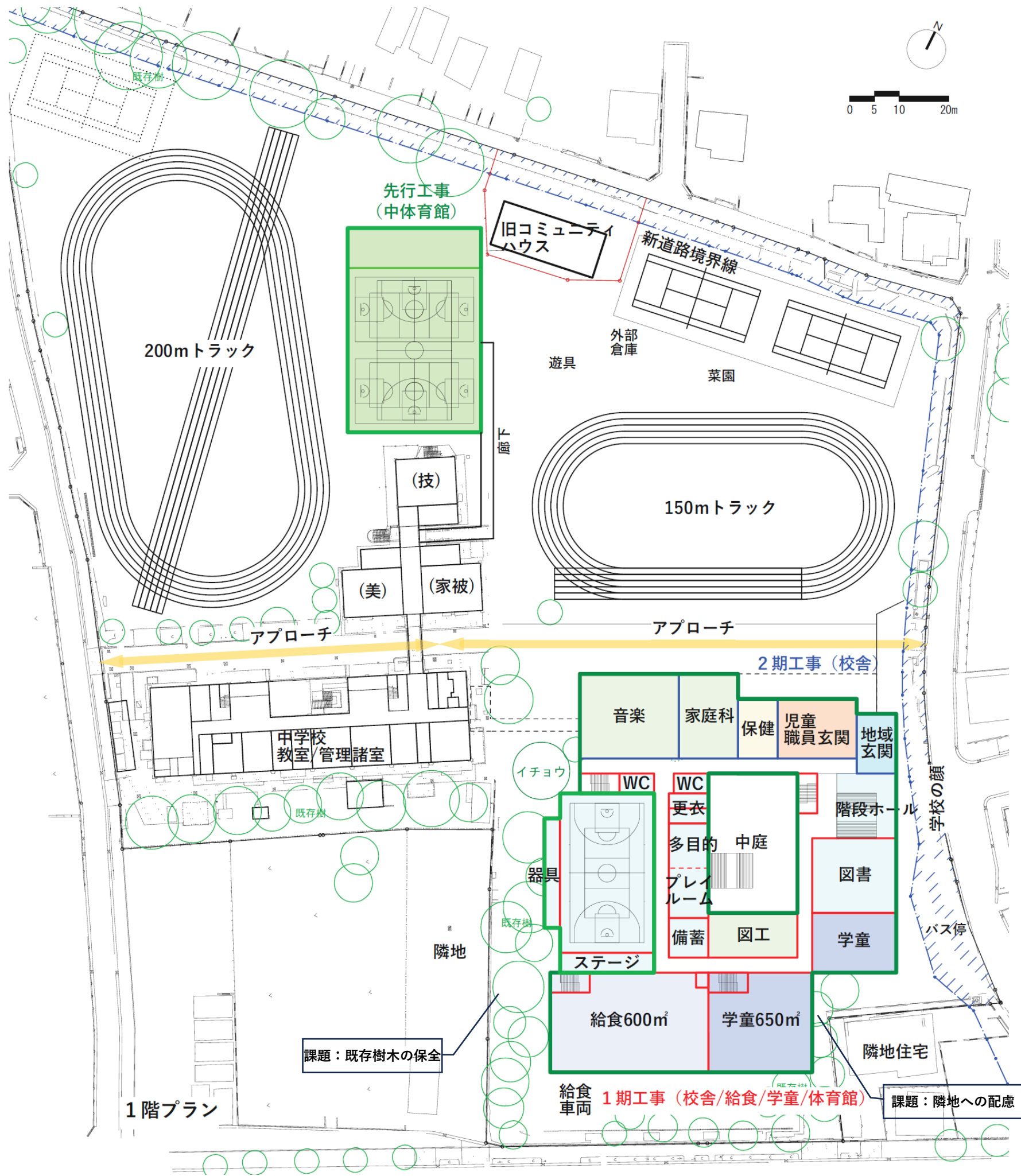
課題

- ・中学校校舎との接続を考慮し、体育館を南側に配置しているが、教室を北側に配置しなければならないため教室配置に難がある。
- ・また鋭角な角地である敷地に校舎形状を合わせているため、給食室の内部構成を早期より検討し、他の諸室と調整する必要がある。
- ・北側住宅地に対して、校舎からの見下ろしに配慮する必要がある。
- ・中学校を将来建て替える際、校庭北側に新校舎を建設する場合を想定して接続動線を確保しておく必要がある。なお、その場合は本案では中学校体育館と中学校新校舎が遠くなるという難がある。

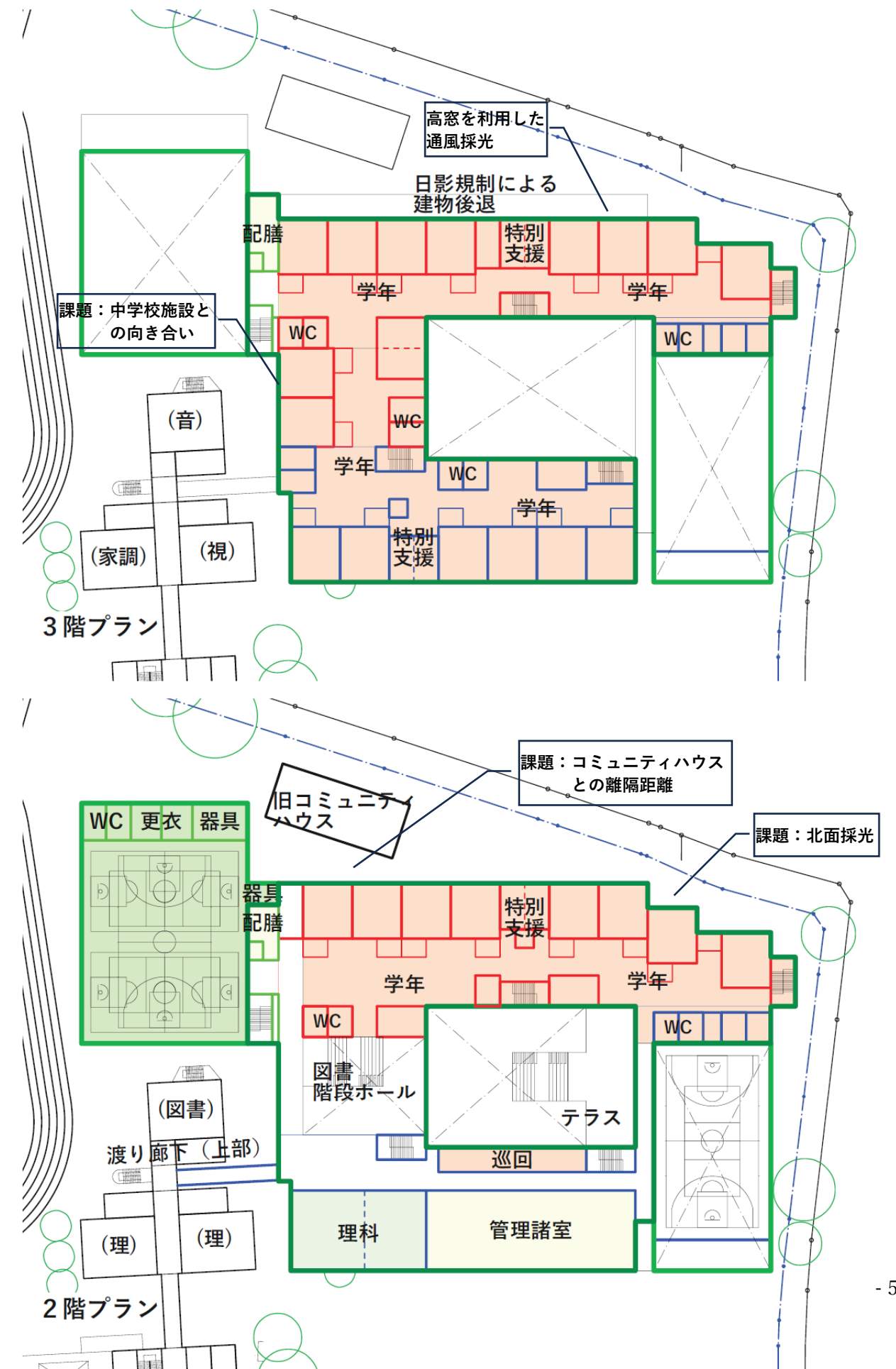
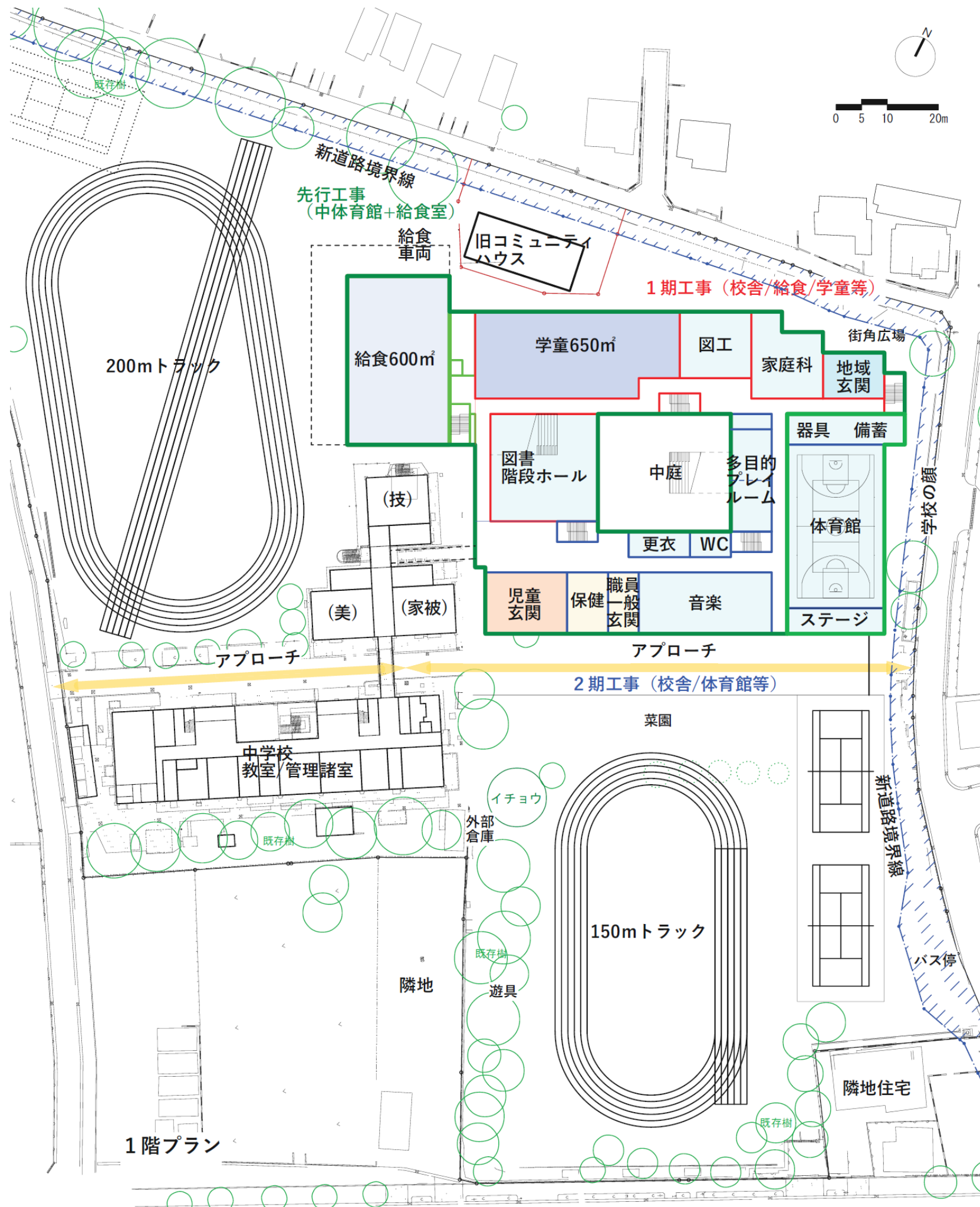
(2) 平面計画案

平面計画案を次頁に示す。

平面計画A案-南東配置



平面計画 B①案-北東配置（仮設校舎なし）



平面計画 B②案-北東配置（仮設校舎あり）

